

筑波大学新聞

第394号

編集責任
筑波大学新聞
編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699

E-mail
shinbun@
un.tsukuba.ac.jp

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

注目記事

マレーシア校 過去最多 24 人入学
吹奏楽団 50 周年記念演奏会
未来社会デザイン棟愛称表彰式
柔道女子団体インカレ準優勝
剣道小柳がインカレ3位

15 14 11 4 2

特集

サッカー日本代表を支えた筑波大勢 6・7
6年目迎えた総合学域群 8・9
写真で HIRA-NOVA 探検 10

柳沢教授に米ラスカー賞

睡眠研究で「世界に認識されうれしい」



受賞から一夜明け報道陣に笑顔を見せる柳沢教授（9月10日、IIISで）＝川畑悠成撮影

米国医学界で最も権威があるとされる「ラスカー賞」の受賞者が9月9日に発表され、基礎医学研究部門の受賞者に筑波大学国際統合睡眠医学研究機構（IIIS）長の柳沢正史教授が選ばれた。柳沢教授は1998年に睡眠と覚醒を制御する脳内物質「オレキシン」を発見し、日中に突然強い眠気が襲う睡眠障害「ナルコレプシー」の病態を解明したことが評価された。柳沢教授は翌日に同機構で開かれた記者会見で「睡眠の基礎研究に対して医学分野の権威ある賞をいただいたことで、この領域が世界に認識されたことがうれしい」と喜んだ。（鈴木華二比較化学類2年、青野心平II物理学類4年、川畑悠成II知識情報・図書館学類3年、16面に関連写真）

柳沢教授は米スタンフォード大のエマニュエル・ミニーョ教授との共同受賞。また、今年の臨床研究部門では中外製薬（本社・東京都中央区）で血友病の治療薬を開発した服部有宏・元シニアフェロー、井川智之研究本部長、北沢剛久研究副本部長の3人が選出された。米ラスカー財団が発表した。部門ごとに25万ドルが授与される。

柳沢教授は筑波大学大学院生だった88年に血管収縮物質「エンドセリン」を発見。91年に31歳で米テキサス大に研究拠点を移した。98年に筑波大の後輩だった櫻井武博士（現筑波大学医学系・同機構教授）と一緒に「オレキシンを発見した。その翌年には、オレキシンが睡眠と覚醒に影響することを確認した。2012年からは研究拠点を日本に移し、同機構長を務めている。今回の受賞は睡眠覚醒メカニズムの理解や睡眠障害の病態解明など学術的貢献に加え、それが過眠症や不眠症の治療薬開発につながった点も評価された。

柳沢教授は現在、「人はなぜ眠るのか」「眠気の正体は何か」という眠りの根本的な疑問解決に向けた研究を進めている。同賞はノーベル医学・生理学賞の登竜門と言われることもあり、記者会見では関連する質問も出た。これに対し柳沢教授は「いずれ睡眠の領域にノーベル賞が出ることはあると思うが、オレキシンや私のことは分からない」と答えた。

合成とともに、その物性の研究にも取り組んだ。開学50周年を契機とした本紙のインタビュー（2023年8月）で、筑波大には学際性など研究を進展させる環境があったと振り返り、「教授を頂点とした講座制を廃した新構想大学で、自分自身で率先して研究に取り組めたことも大きい」と話した。

また「研究する上で一番役に立ったのは思い通りに行かなかった時。失敗の原因を探ることで、全く別のテーマが見つかることもある」と語り、ノーベル化学賞のきっかけとなった研究も「セレンディピティ（偶然から生まれる予想外の発見）だった」と語った。

筑波大退職後は子どもたちに科学実験の授業をしてきた。科学技術に親しむには自分が手を下して実験する



本紙の取材に答える白川名誉教授（2023年8月24日、横浜市青葉区で）＝川上真生撮影

「科学教育や科学報道を充実に」と語り、国民の科学への関心を高めることが、地球規模課題の予防や解決につながる」と話していた。

1992年から白川名誉教授と研究に取り組んだ木島正志名誉教授（68）は、その人柄を「ボリアセレン（導電性高分子）が大好

きた。『自然のままに』という考えのもと、起こったことを観察して真実を見つけて発展させる、諦めない人」と話した。「学際性を大切にしていたので、自分も分野の壁を作らずに研究を進展させていくという意識が付いた」と白川名誉教授から受けた薫陶を語る。

研究室の卒業生の集まりで4月に会った時には、子どもたちの実験授業の報告などをしていただいていた

日本語論文を世界へ

筑波大発のプラットフォームを全国に開放

筑波大は日本語論文を世界に発信する独自の学術出版プラットフォーム「Japan Institute for Global Gateway (JIGG)」を、全国の大学、研究機関に開放した。国際的な学術雑誌への投稿は英語が大半だが、JIGGは日本語による投稿・出版を認めており、掲載論文は世界的な論文データベースにも収録される。このため、日本語論文が世界に届きやすくなる。池田潤学長特別補佐は「埋もれていた日本語論文が世界に知れ渡る仕組みとして活用してほしい」と呼びかけている。

JIGGは英国の大手学術出版社「テイラー＆フランシス」と筑波大が2022年8月から共同運営しており、これまでに提携する京都大など国内10大学と科学技術振興機構（JST）など

「元気な様子だったのだから、非常に残念だ。これから、白川先生の業績を紹介していきたい」とのんだ。（青野心平）

研究室内の卒業生の集まりで4月に会った時には、子どもたちの実験授業の報告などをしていただいていた

「元気がいい様子だったのだから、非常に残念だ。これから、白川先生の業績を紹介していきたい」とのんだ。（青野心平）

研究室内の卒業生の集まりで4月に会った時には、子どもたちの実験授業の報告などをしていただいていた

今年の夏、初めて救急車に乗った。筑波大の多文化共修プログラムで訪れたカザフスタンでのことだ。10日間の日程のうち、3〜4日目に山間地でキャンプし、透き通った湧き水を「きれいだ」と思って飲んだところ、翌日の夜から激しい腹痛に襲われた。眠れないまま朝を迎えて、病院に運ばれた▼病院では英語がほとんど通じず、自力で症状を伝えることができない。渡航前に翻訳アプリを用意していたが、スマートフォンを操作することができなかった。結局、プログラムに参加していたロシア人留学生に翻訳してもらい、約3時間に及んだ検査や点滴などを乗り越えられた▼小学生の頃からバレエを習い、バレエ芸術が盛んなロシアに憧れた。カザフの公用語はカザフ語とロシア語で、大学入学後に学び始めたロシア語を生かす機会になると、同プログラムに参加した。だが、実力不足を痛感した。両語ともキリル文字で書かれており、区別が付かない。現地の人々の発音も日本で聞いていたものとは勝手が違い、聞き取れない▼そして、病院で困り果てた。自動翻訳が発達し、言語を学ぶ必要性が問われている。だが、カザフで実感したのは、身ぶり手ぶりも含めたコミュニケーションの重要性であった▼腹痛が治まってきた。簡単なカザフ語を積極的に使うようにした。土産屋で「ラフメット（ありがとう）」と伝え、店員が日本語で「ありがとう」と返してくれ、うれしくなった。

従来の論文は、提出から査読を経て掲載に至るまでに、1年近くかかることも珍しくなかった。一方、JIGGでは、基本的な形式を満たせば、数日から数週間

でインターネット上に無料公開され、誰でもアクセス可能となるオープンアクセス方式をとっている。

近年、学術雑誌の購読料の高額化が問題視されているが、オープンアクセスな購読料の心配はない。

また、論文の査読は匿名の専門家が行うことが通常だが、JIGGでは無料公開された論文を、世界中の専門家が実名でオンライン上に評価や助言を書き込む方式のため、透明性が高い。

池田学長特別補佐は「まずはJIGGを多くの研究者に知ってもらいたい。世界中の人々に日本語の論文が読まれることで、日本の研究力が広く知られていくことを期待する」と語る。（飯野歩II国際総合学類2年）

白川名誉教授死去

導電性高分子の発見でノーベル化学賞

電気を通すプラスチック「導電性高分子」の発見と開発で2000年にノーベル化学賞を受賞した白川英樹筑波大名誉教授が8月24日、転移性肝腫瘍と原発不明がんのため横浜市の病院で亡くなった。90歳。葬儀は近親者で執り行われた。

白川名誉教授は1936年東京生まれ。61年に東京工業大（現・東京科学大理工学部化学工学科を卒業した。同大学院理工学研



本紙の取材に答える白川名誉教授（2023年8月24日、横浜市青葉区で）＝川上真生撮影

究科博士課程を修了し、同大助手、米ペンシルベニア大博士研究員を経て、79年に筑波大に着任した。82年に物質工学系教授となり、教育研究活動に尽力した。筑波大名誉教授となった2000年にノーベル化学賞と文化勲章を受賞した。筑波大着任後は高分子の

境があったと振り返り、「教授を頂点とした講座制を廃した新構想大学で、自分自身で率先して研究に取り組めたことも大きい」と話した。

また「研究する上で一番役に立ったのは思い通りに行かなかった時。失敗の原因を探ることで、全く別のテーマが見つかることもある」と語り、ノーベル化学賞のきっかけとなった研究も「セレンディピティ（偶然から生まれる予想外の発見）だった」と語った。

筑波大退職後は子どもたちに科学実験の授業をしてきた。科学技術に親しむには自分が手を下して実験する

マレーシア校入学式 3年目 最多24人入学



笑顔で集合写真に写る新入生ら＝マレーシア校提供

学際サイエンス・デザイン専門学群（マレーシア校）の第3回入学式が9月1日、マレーシアの首都クアラルンプールで開かれた。新入生は昨年より9人多い24人で、2024年9月の開校以来最多となった。

入学式には新入生とその家族、マレーシア高等教育省、マレーシア日本国大使館をはじめとした両国の関係者、筑波大の永田恭介学長、加藤光保プロボストらが出席した。24人の内訳は日本人13人、マレーシア人7人、中国人3人、オーストラリア人1人。

現地のマラヤ大で大学進学資格を得るための予備教育を受けて入学したヌル・ディニさん（学際専1年）は「自然科学や文学などさまざまな分野を学べる点に引かれた。体育で柔道を習うことも楽しみに話した。家族でマレーシアに暮らす中村光太郎さん（同）は「同級生と協力して行う課

題解決型学習（PBL）を通して、コミュニケーション能力を磨きたい」と意気込んだ。

同学群長の辻村真貴教授（生環系）によると、マレーシア校の知名度アップを図るため、昨年度は地元の小・中・高校で教員が模擬授業を実施し、高速道路脇な

どで電子広告を展開した。今後は、予備教育を行う現地の他大学との連携を強め、マレーシア人学生の増加を図っていくという。

辻村学群長は「地道なアピールが入学者数の増加につながった。東南アジア諸国や日本国内の高校生にも積極的に働きかけ、1学年の定員である40人の新入生を集めたい」と話した。

式典では各学年で1年間のGPA（成績評価）が最も高かった学生に贈られるBest Student Awardの表彰式も行われた。大野万凜さん（同3年）が2年連続で受賞、高田らなさん（同2年）が初めて受賞した。松尾有姫（比較文化学類3年）

小学生が医療現場体験

附属病院でセミナー

筑波大附属病院は、子どもたちに最先端の医療技術などを体験してもらう「つくばキッズメディカルユニバーシティ」を7月28日と8月18日に開催した。今年で9回目となるイベントで、両日とも抽選で選ばれた児童30人が参加した。（川畑修成、写真も）

今年は、牛久市や潮来市など茨城県南部8市町村および筑波大附属小学校の小学5、6年生を対象に実施され、118人の応募があつたという。

参加者は医師や看護師、薬剤師の説明を受けながら、救急医療セミナーや外科・内科セミナーなどを通して医学・医療の基礎を学んだ。

このうち外科セミナーでは、参加者は手術着を身にまとい、豚の心臓の実物に触れながら、心臓の仕組みについて学習した。

また、内科セミナーでは、超音波（エコー）検査について学んだ。この検査は、人間の耳には聞こえない高い周波数の音を体に当て、その反射を映像化して体内の状態を調べる。参加者たちは、黒色の中の見えないゼリーにエコー機器をあて、その中に入っている食べ物何かが当てる体験をした。

学際創成学術院説明会

G-SIGMA 2027年4月開設

来年4月に開設される筑波大の新たな大学院組織「学際創成学術院G-SIGMA」の説明会が7月28日、未来社会デザイン棟で開かれた。同学術院を構成する創成法学、ソーシヤルエコロジー、次世代エネルギー、共創▽ライフインベーション▽ヒューマニクスの5学位プログラムの教育内容や入試の概要が紹介され、対面とオンラインを合わせ学生、教職員ら183人が参加した。

具体的には、法学や経済学、理学、工学、農学、医学など既存の専門領域を土台に、学際的に研究を進める。これにより、未来社会の秩序形成や持続可能な次世代の社会基盤、生命の持続性、人間の可能性といった課題の解決に挑む高度研究人材や高度専門職人材の育成を図る。

説明会後には五つの学位プログラムごとのアコースが設けられ、進学希望の学生向けの個別相談も行われた。今年10月以降に1期生の入試を実施し、27年春以降に入学者を受け入れる。各学位プログラムの募集人員は、創成法学11博士前期課程10人、同後期課程6人▽ソーシヤルエコロ



G-SIGMAの説明を受ける参加者ら（7月28日、未来社会デザイン棟で）

ジー11博士前期課程6人、同後期課程2人▽次世代エネルギー学類3年、写真も）



手術着を着て豚の心臓に触る児童ら（7月28日、医学エリアで）

参加した牛久市在住の小学6年生、杉本琴音さんは「豚の心臓に触ったのは初めてだった。とても柔らかく、フニャニとしていて驚いた。将来は医者さんになって困っている人を助けたい」と目標を話す。

セミナー終了後の閉会式では、参加者全員に平松祐司病院長から修了書が授与された。平松病院長は「このイベントが、子どもたちが将来を描く何かのヒントとなり、この病院に仕事などの形で関わってもらえるようになればうれしい」とあいさつした。

広告欄

掲載のお問い合わせは

shinbun@un.tsukuba.ac.jp

までお願いします。

半世紀の歩み華やかな楽曲に乗せ 吹奏楽団 50周年記念演奏会



「吹奏楽のための第一組曲」を演奏する団員ら＝筑波大学吹奏楽団提供

筑波大学吹奏楽団の創団50周年記念演奏会が9月5日にノバホール(つくば市吾妻)で開かれた。約600人が来場し、50周年を祝う華々しい楽曲を楽しんだ。

吹奏楽団は1976年に「祝典序曲」で幕を開け、有志学生によって創設され、これまで95回の定期演奏会を行ってきた。50周年記念演奏会には約1000人が出演した。

演奏会は2部構成。第一部はショスタコービッチの「祝典序曲」で幕を開け、

冒頭の力強い金管のファンファーレが50年の節目を華やかに飾った。

2曲目はグレインジャー作曲の「デリー」地方のアイランド民謡。北アイルランドのデリー地方の民謡を吹奏楽にアレンジした楽曲で、木管が郷愁と温かさを誘う優しい旋律を繊細に奏でた。

第一部のラストはホルスト作曲の「吹奏楽のための第一組曲」。吹奏楽の古典的名曲と評され、シャコンヌ(舞曲)、インテルメツォ(間奏曲)、マーチ(行進曲)の3楽章からなる。シャコンヌは一つの主題のリズムや拍子を変えて繰り返す変奏曲形式で、チューバなどの低音楽器が重厚で荘厳なテーマを繰り

返し緊張感を高めた。打って変わってインテルメツォでは、フルートが遊び心を感じさせる軽快なフレーズを跳ねるようなリズムで吹き上げた。マーチではシャコンヌの華々しさとインテルメツォの疾走感を引き継ぎ、各楽器が作品全体を締めくめる高揚感を演出した。

第二部は「吹奏楽のための『シーンズ』」で開幕。楽団でトランペットを指導する、三井住友銀行吹奏楽団常任指揮者の松尾素司さんが架空の映画の劇伴として作曲したものだ。ホルンののりりしい響きから始まり、木管が旋律を鮮やかに彩る。ドラムが加わり苛烈さを増していき、冒頭のテーマを再現し壮大に終結

すること、物語の起承転結を巧みに表現した。

公演の最後は「ピース、ピースと鳥たちは歌う」。楽団の指揮指導者で、洗足学園音楽大名誉教授の伊藤康英さんが平和の願いを込めて作曲したものだ。オーボエのソロによって曲は始まり、戦火を連想させるような激しい変拍子の曲調をお客様と団員への感謝の気持ちでいっぱいだと振り返った。

筑波大学人形劇団NEUが「子ども劇場首都圏」の一環として実施された。紹介する「トライシスター」の多い料理店(宮沢賢治原作)を上演した。親子のために舞台芸術などの文化活動を体験する機会を

注文の多い料理店上演

人形劇団NEU

筑波大学人形劇団NEUが「子ども劇場首都圏」の一環として実施された。紹介する「トライシスター」の多い料理店(宮沢賢治原作)を上演した。親子のために舞台芸術などの文化活動を体験する機会を



山猫の料理の食材になりかける紳士を演じるメンバーら＝筑波大学人形劇団NEU提供

創出することで、子どもたちの生きる力や感性を育むことを目指す首都圏各地の市民団体の協議会だ。

NEUは1976年に創設された。春日エリアの春日課外活動施設を拠点に人形劇の練習や道具の製作を行い、学内で定期公演を行うほか、小学校や幼稚園などで出張公演をしている。現在のメンバーは約20人だが、この日は2人のキャストと物語に合わせて楽器を生演奏する「楽士」の3人で臨んだ。

「注文の多い料理店」は、山奥で遭難した紳士2人が西洋料理店に入り、店からの注文に従うことで、自分たちが山猫の料理の食材になりかけるという物語だ。店の中で恐ろしい目にあった紳士たちの顔が変わるところが人形劇の見どころだ。山猫が本性を現し紳

士に襲いかかる終盤のシーンでは、シンバルで緊張感を演出した。

上演終了後は、演者が使用した楽器や人形の仕組みを解説し、会場は和やかな雰囲気になった。

代表の横井一葉さん(生物3年)は「プロの劇を見ている人たちにってもらえる貴重な機会になった。上演後の交流も含めて、観客に楽しんでいただけて、うれしかったと振り返った。

福岡市から訪れた中学1年生の大河賢十さんは「友人に誘われて鑑賞した。壁や光、音楽の加減でその時の紳士の感情や状況を伝えていて面白かった。学生ならではの、はきはきとした声ですてきだった」と話した。(確井美弥子Ⅱ知識情報・図書館学類1年、大竹翔)

置かれた2台のキーボードの間を、学校の体力テストで行う「シャトルラン」のように往復しながら演奏するパフォーマンスを披露した。

演奏されたのは、キーボードが活躍するサカナクションの「新宝島」で、出演者は体の動きを誇張して表現した。辻さんは「音を鳴らすために頑張っていることを視覚的にも分かりやすく伝えたかった」と語る。

この他、生物の解剖実験や健康診断をテーマにした作品も発表された。

東助教は、「発表の場を自らつくり上げた経験は学生にとって大きな収穫だ。今後も発表の機会を増やしたい」とイベントを振り返った。(大成夏生・写真も)

元慰安婦の自伝巡り議論

学生と教員垣根なく「社会学ブッククラブ」

社会問題を背景とした人々の生き方や選択などを扱った文学作品について、学生と教員が気楽に語り合える場として昨年5月に始まった社会学ブッククラブが順調に回を重ねている。第9回となった7月28日のクラブでは、元慰安婦と名乗り出た城田早苗が私娼や「慰安婦」として生きた半生をつづった「マリヤの賛歌」(岩波現代文庫)を

課題図書に、学生4人と教員3人が意見交換した。同クラブは坂井和心さん(社会学4年)が中心となり発足した。坂井さんは「普段は授業の中で接することの多い学生と教員が授業の場を離れ、作品の感想を語り合うことを通じて交流できる場を作りたいと考えた」と、その経緯を語る。

課題図書は教員と運営に携わる学生との協議で選ば

れた。今回は坂井さんが韓国へ調査実習に行く関連で、クラブに参加している教員が推薦した本に決まった。

会場の1B棟101教室では、参加者が持ち寄った菓子をつまみながら和やかに話が進んだ。時には、作中の菓子を食べながら談笑することもあったという。坂井さんから運営を引き継いだ鎌田桜帆さん(同3年)が司会進行役を務めた。

作品後半の展開を巡って参加者の受け止め方が分かれ、議論は盛り上がりを見せた。

全20章のうち、11章の「更生への道」以前は「転落」の物語が描かれ、以後は「更生」への歩みが語られる。同章では、駅の売店で週刊誌「サンデー毎日」を手にしたことで、城田が婦人保護施設存在を知り入寮を決意する。ある参加者はこの出来事を「人生の転機」と捉えた。

前半と比べ後半につらい描写が少ないことについて、一部の参加者からは想定と違い拍子抜けした「お利口さんになってしまった」との感想が出た。他方で「新しい人生を送るために記憶から消そう」としている部分もあるのでは」という解釈も出された。また、「一般に想像されるかわいそうな慰安婦イメージには収まりきらない1人の女性としての主体性が、後半では少し形を変えながら現れていくところが印象に残った」という意見もあった。

初参加だった前回に続き、今回も参加した中込怜巳さん(同1年)は「書いてあることをそのまま受け取るのではなく、なぜか」と問い直すことの重要性を学んだ」と話した。

鎌田さんは「参加者には話さなければ話さなくていいという共通認識がある。学生と教員がフラットな関係で、自由に感想を共有できる場にしていきたい。ゆるさどまじめさのバランスがちょうどよい」と言う。

クラブの常連の田中醇助教(人社会学)は「昨年4月の着任直後から継続参加している。自分とは違った意見が学生から出てくるのが面白い」と語った。

今回は10月ごろの開催を予定している。坂井さん、鎌田さんは「さまざまな専門分野の先生に来てほしい。学生、教員問わず参加してくれたらうれしい」と抱負を述べた。

取得の分野は「社会学」で、城田が婦人保護施設存在を知り入寮を決意する。ある参加者はこの出来事を「人生の転機」と捉えた。

前半と比べ後半につらい描写が少ないことについて、一部の参加者からは想定と違い拍子抜けした「お利口さんになってしまった」との感想が出た。他方で「新しい人生を送るために記憶から消そう」としている部分もあるのでは」という解釈も出された。また、「一般に想像されるかわいそうな慰安婦イメージには収まりきらない1人の女性としての主体性が、後半では少し形を変えながら現れていくところが印象に残った」という意見もあった。

初参加だった前回に続き、今回も参加した中込怜巳さん(同1年)は「書いてあることをそのまま受け取るのではなく、なぜか」と問い直すことの重要性を学んだ」と話した。

鎌田さんは「参加者には話さなければ話さなくていいという共通認識がある。学生と教員がフラットな関係で、自由に感想を共有できる場にしていきたい。ゆるさどまじめさのバランスがちょうどよい」と言う。

クラブの常連の田中醇助教(人社会学)は「昨年4月の着任直後から継続参加している。自分とは違った意見が学生から出てくるのが面白い」と語った。

今回は10月ごろの開催を予定している。坂井さん、鎌田さんは「さまざまな専門分野の先生に来てほしい。学生、教員問わず参加してくれたらうれしい」と抱負を述べた。

芸専の学生らがパフォーマンス披露

「学校」を共通テーマに



声を掛け合いながら「ブンブンゴマ」を回す出演者ら(8月6日、未来社会デザイン棟で)

芸専専門学群の学生らによるパフォーマンスイベント「キンコンカンコン」が8月6日、未来社会デザイン棟で開かれた。東弘一郎助教(芸術系)が担当する「総校」を共通テーマにした7

作品を披露した。「アート筋トレ」では、提示された課題に応じた作品を限られた時間内に制作して発表する。今年の課題は「全員で一つのパフォーマンスイベントをつくること」と「各自のパフォーマンス作品を発表すること」の二つ。学生たちは、それぞれが「学校」を共通テーマにしたパフォーマンスを披露することになった。

岩尾帆高さん(芸専2年)は、小学校の図画工作などでもよく作られる「ブンブンゴマ」を題材にした。また、辻龍馬さん(同4年)と利根匠海さん(又創研究生)は、左右に離れて

選んだ。中央に二つの穴をあけた厚紙などにひもを通し、そのひもを引っ張ったり緩めたりして高速回転させる。通常は両手で持って遊ぶが、岩尾さんは直径18.2

夢の巨大なブンブンゴマを制作し、他の出演者にも協力してもらいながら回した。「身近な工作であるブンブンゴマを巨大化する単純作業により、美術でないものと美術との境界を揺さぶることを狙ったという。

大型化するほど高速回転させるのが難しかったため、運動会のような音楽を流し、声を掛け合いながら回すことで、楽しさを演出した。

また、辻龍馬さん(同4年)と利根匠海さん(又創研究生)は、左右に離れて

教室にトランペットの響き

非日常を楽しむ

TRS
サロンシリーズ

東京交響楽団の首席トランペット奏者、ローリー・ディランさんを迎えたコンサート「気鋭のトランペッター、教室で生演奏！」が



教室で息の合った演奏を披露したディランさん（右）と高橋さん＝TRS実行委員会提供

7月4日、1日棟201教室で開かれた。筑波大生ら約200人で満席になり、観客はトランペットとピアノのハーモニーに聴き入った。

筑波大有志学生による実行委員会が主催するコンサート「つくりサイタルシリーズ（TRS）」の中

でも、気軽にクラシック音楽を楽しんでもらおうと始めた「サロンシリーズ」の第1番「短調op.11」（ウィリー・ブラント作曲）、「スケルツォ第4番ホ長調作品54」（フレデリック・ショパン作曲）、「トランペット協奏曲変イ長調」（アレクサンダー・アルチュニアン作曲）が演奏された。最後は実行委顧問の江藤光紀准教授（人社会学部）が書き下ろした「オウセシヴ・パルス」が初演された。一定のリズムで鼓動を表すピアノと、徐々にテンポが速くなるトランペットが「魂の衝動」を表現した。

パルスは英国、ハイランドはオーストリア、ブランドはドイツ出身でロシアで活躍、ショパンはポーランド、アルチュニアンはアル

バートン・ソナタニ

長調Z.850」で開幕した。2曲目は、音階が大きく変化し、トランペットの華やかな技巧を楽しめる「トランペット協奏曲変ホ長調（ヨーゼフ・ハイドン作曲）」が軽やかに披露された。

続いて、「演奏会用小品第1番ヘ短調op.11」（ウィリー・ブラント作曲）、「スケルツォ第4番ホ長調作品54」（フレデリック・ショパン作曲）、「トランペット協奏曲変イ長調」（アレクサンダー・アルチュニアン作曲）が演奏された。最後は実行委顧問の江藤光紀准教授（人社会学部）が書き下ろした「オウセシヴ・パルス」が初演された。一定のリズムで鼓動を表すピアノと、徐々にテンポが速くなるトランペットが「魂の衝動」を表現した。

パルスは英国、ハイランドはオーストリア、ブランドはドイツ出身でロシアで活躍、ショパンはポーランド、アルチュニアンはアル

バートン・ソナタニ

バートン・ソナタニ

バートン・ソナタニ

Bombs！ベストエモーションナル賞

UNIDOL決勝戦

大学対抗アイドルコピーダンス大会「UNIDOL（ユニドル）2026 Summer supported by ILIVE」の決勝が9月16日、カナデビアホール（東京都文京区）で開かれた。筑波大の「Bombs！」は「ベストエモーションナル賞」を受賞した。同賞は審査員が最も心を揺さぶられたチームに贈られる。ステージに立つことみなさん（活動名「社会学2年」）は「会場全体を巻き込む演技を心掛けてきた。その点が評価されたことほうれしい」と話した。

UNIDOLは2012年に初開催された。Bombs！は関東予選1日目を総合1位（審査員、会場観客、2人）の演奏技術の高さを感じたと話した。（大竹翔 鈴木華）

室でも2人の演奏技術の高さを感じたと話した。（大竹翔 鈴木華）

室でも2人の演奏技術の高さを感じたと話した。（大竹翔 鈴木華）

室でも2人の演奏技術の高さを感じたと話した。（大竹翔 鈴木華）

室でも2人の演奏技術の高さを感じたと話した。（大竹翔 鈴木華）

室でも2人の演奏技術の高さを感じたと話した。（大竹翔 鈴木華）

短歌 筑波大

秋晴れの石畳照る広場には噴水

季節の息吹たずさう



9月1日、筑波大キャンパスで

9月、まだ夏季休業期間のキャンパスは静まり返り、石の広場にも春学期のような人通りはない。そこでは誰にも見られるためもなく、噴水だけが秋晴れの光を全身に浴びて、ただただ眩しく輝いていた。広場に響き渡る清らかな水音と、どこまでも高く澄みわたる青空。ひっそりと秋の息吹をたずさえるその噴水は、この誰もいない静寂な空間をそっと独り占めするように、どこまでも美しく立ち上っていた。（東風えまり 人文学学位プログラム1年、写真も）

森の二センチ

森の二センチ。良い。家族や友人との旅行も楽しいが、孤独であるほうが、その土地の人と話す機会が生まれやすいと感じる。研究では土地に入っていくことを追及することをフィールドワークという。私の研究対象は学校の路線バスに乗り込むと、最後は運転手さんと二人きり。飛行機での移動なら、眼下の山あいには小さな学校を見つけ、そこでの暮らしを妄想する。小学生の頃から日本のあちこちを旅してきた。一人で出かけるのが、高校生の時、旅から帰ると、紀行エッセイを書く。原典といえは、10年以上前、博士論文をよやく書き上げ、出版した時を思い出す。中央図書館の本館4階、薄暗い書架の前でひとり、自費を見つけてニヤリ。うれしくなった。しかし間もなく、この巨大な森で、厚さわずか「二センチ」の一冊に過ぎないと気づく。愕然とした。だが、これからやることがある。

き溜めた。近所の印刷所に頼んで製本してもらった。大学3年になると2冊目を作った。同級生や恩師に配った。ひと夏に青春18きっぷを何セット使ったことだろう。文章を書くのは骨が折れる。話すのとは違う。立ち止まり、行きつ戻りつ確かめる。今は論文を書くことが仕事になった。出会った世界を書き留めて正確に伝えようとすると、やはり似通っているかもしれない。原典といえは、10年以上前、博士論文をよやく書き上げ、出版した時を思い出す。中央図書館の本館4階、薄暗い書架の前でひとり、自費を見つけてニヤリ。うれしくなった。しかし間もなく、この巨大な森で、厚さわずか「二センチ」の一冊に過ぎないと気づく。愕然とした。だが、これからやることがある。

き溜めた。近所の印刷所に頼んで製本してもらった。大学3年になると2冊目を作った。同級生や恩師に配った。ひと夏に青春18きっぷを何セット使ったことだろう。文章を書くのは骨が折れる。話すのとは違う。立ち止まり、行きつ戻りつ確かめる。今は論文を書くことが仕事になった。出会った世界を書き留めて正確に伝えようとすると、やはり似通っているかもしれない。原典といえは、10年以上前、博士論文をよやく書き上げ、出版した時を思い出す。中央図書館の本館4階、薄暗い書架の前でひとり、自費を見つけてニヤリ。うれしくなった。しかし間もなく、この巨大な森で、厚さわずか「二センチ」の一冊に過ぎないと気づく。愕然とした。だが、これからやることがある。

き溜めた。近所の印刷所に頼んで製本してもらった。大学3年になると2冊目を作った。同級生や恩師に配った。ひと夏に青春18きっぷを何セット使ったことだろう。文章を書くのは骨が折れる。話すのとは違う。立ち止まり、行きつ戻りつ確かめる。今は論文を書くことが仕事になった。出会った世界を書き留めて正確に伝えようとすると、やはり似通っているかもしれない。原典といえは、10年以上前、博士論文をよやく書き上げ、出版した時を思い出す。中央図書館の本館4階、薄暗い書架の前でひとり、自費を見つけてニヤリ。うれしくなった。しかし間もなく、この巨大な森で、厚さわずか「二センチ」の一冊に過ぎないと気づく。愕然とした。だが、これからやることがある。

き溜めた。近所の印刷所に頼んで製本してもらった。大学3年になると2冊目を作った。同級生や恩師に配った。ひと夏に青春18きっぷを何セット使ったことだろう。文章を書くのは骨が折れる。話すのとは違う。立ち止まり、行きつ戻りつ確かめる。今は論文を書くことが仕事になった。出会った世界を書き留めて正確に伝えようとすると、やはり似通っているかもしれない。原典といえは、10年以上前、博士論文をよやく書き上げ、出版した時を思い出す。中央図書館の本館4階、薄暗い書架の前でひとり、自費を見つけてニヤリ。うれしくなった。しかし間もなく、この巨大な森で、厚さわずか「二センチ」の一冊に過ぎないと気づく。愕然とした。だが、これからやることがある。

き溜めた。近所の印刷所に頼んで製本してもらった。大学3年になると2冊目を作った。同級生や恩師に配った。ひと夏に青春18きっぷを何セット使ったことだろう。文章を書くのは骨が折れる。話すのとは違う。立ち止まり、行きつ戻りつ確かめる。今は論文を書くことが仕事になった。出会った世界を書き留めて正確に伝えようとすると、やはり似通っているかもしれない。原典といえは、10年以上前、博士論文をよやく書き上げ、出版した時を思い出す。中央図書館の本館4階、薄暗い書架の前でひとり、自費を見つけてニヤリ。うれしくなった。しかし間もなく、この巨大な森で、厚さわずか「二センチ」の一冊に過ぎないと気づく。愕然とした。だが、これからやることがある。

芸術エリアでアート・マルシェ 子どもたちが制作活動



学生にぼうし制作を教えてもらう参加者＝つくば文化振興財団提供

幼児から高校生までを対象にしたアートイベント「夏休みアート・マルシェ」が7月18、19日に5C棟など芸術エリアで開かれた。筑波大の社会貢献プロジェクトの二環で、静物画や人物画、彫刻など七つの制作系ワークショップと、筑波大生の作品を鑑賞する制作系ワークショップの

制作系ワークショップの

うち「ぼうしをつくらう」では、宮原克人准教授（芸術系）が講師となり、つくば式のぼうし作りを子どもたちに伝授した。つくばのぼうし職人から学んだ作り方をもちに、制作方法を簡素化しながら、形の美しさと造形的な魅力を保ったもので、稲わらとタコ糸だけで作る。作業は、稲わらを外側の厚い茎と内側の穂がついた茎に分ける▽分けた茎をまとめて20本程度の束を七つ作る▽束一つに糸を5周巻き付ける▽二つ目の束を一つ目の束に重ねてまた5周糸を巻き付ける▽それを繰り返すという手順で進む。糸を巻き付ける部分が階段状になるように束を重ねる位置をずらすのが特徴だ。子どもたちは、講師やアシスタントの筑波大生の助けなども受けながら、大人の手ひら大の小さなぼうしを作りあげた。

講師の日本画家、守屋亜矢子さん（平成21年度芸術専攻後期課程修了）や芸術学群の学生が「静物画」ではモチーフの質感の違いを出すのがポイント」ととにかくのびのび描いて、なごり



丹間康仁 准教授

人間系・准教授。筑波大学院人間総合科学研究科単位取得退学。博士（教育学）。日本学術振興会特別研究員、帝京大教育学部助教・講師・准教授、千葉大教育学部准教授を経て、2024年より現職。

選手を輩出、学生の実績サポートも サッカー日本代表を支えた筑波大勢



代表も監督も輩出

筑波大はその前身の一三峯薫選手（令和元年度同）である体操伝習所が卒）の計4人。

1978年に創設された当時から教科の一つにサッカーを取り入れるなど、長年にわたって日本サッカー界をけん引してきた。

筑波大出身のサッカーW杯日本代表は、中山雅史選手(平成元年度体育専門学群卒)、井原正巳選手(平成元年度同卒)、谷口彰悟選手(平成25年度同卒)、中山選手は日本代表が初出場した1998年フランスW杯で日本代表初ゴールを決めた。井原選手も当時キャプテンとして試合に出場していた。前回大会に出場した三笥選手の活躍は「三笥の1人」として話題になり、記憶に新しい。

また、現在U-21(21歳以下)日本代表を率いる大



日本代表テクニカルスタッフらと筑波大のサポートチーム＝広報局提供

による分析サポートは、それに伴い、日本代表が決勝に進まなければならないが、その

W杯の分析サポート

2022年のW杯カタール大会直後から始まった。その背景には、出場国が従来の32カ国から48カ国に拡大されたことがある。これに伴い、日本代表が決勝トーナメントで対戦する可能性のある国は40チームに上った。万全の態勢で試合に臨むためには、事前に全ての国について情報収集しなければならないが、その蹴球部に40チームの分作業量は膨大になる。そこで日本サッカー協会（JFA）は、これまで国際試合などでの対戦相手分析で実績を挙げてきた

析サポート業務を委託した。小井土正亮監督（体育系・准教授）によれば、1993年のW杯米国大会のアジア最終予選のころから、筑波大学大学院生らが対戦チームの分析に関わってきたという。

今大会のサポートチームに参加した学生は28人。依頼された主な業務は対戦の可能性がある40カ国の基礎資料作成と各国の控え選手のプレー動画作成で、今年4月以降に本格化した。

有志学生 28 人参加

基礎資料作成では、それぞれの国のW杯予選や練習試合など過去3試合分ののデータを分析し、フォーメーションや選手の特徴などを調べてパワーポイント形式にまとめた。また、監督の記者会見を伝える記事も集めて、日本語に翻訳した。

プレー動画作成では、それぞれの国の控え選手のプレー動画をJFAのデータサイトから集め、その中でも重要な10人ほどの選手の特徴的なプレーをそれぞれの数分程度にまとめた。

日本代表のテクニカルスタッフとして出場国の分析を担当した渡邊秀朗さん（令和4年度体育学学位プログラム修了）は「事前に基礎資料を準備してくれていたことで、スタッフは分析の深掘り作業に集中できた」と話す。

こうした地道な貢献に対し、森保一監督からは感謝

岩副監督(平成6年度同卒) 身者が日本サッカーを支へは次期日本代表監督に内定している。

会の田嶋幸三前会長(昭和) 今回のW杯では谷口選手がDFとして4試合中3試

身者が日本サッカーを支えている。

今回のW杯では谷口選手がDFとして4試合中3試

蹴球部監督 小井土正亮准教授＝飯野歩撮影

一方、今大会でも主力としての活躍が期待されていた三ッ選手は、左太もも裏のけがで代表に選出されなかった。三ッ選手從小井土監督には「強くなって帰ってきます」と連絡があったという。小井土監督は「早くけがを治し、思う存分サッカーができる状態に戻ってほしい」と思いを語った。

の言葉を贈られたという。変だったが、チームメイトと支え合いながらサポーターとしてイランやスイスなどの分析を担当した日比亜斗夢さん(体専2年)は「作業には1カ月で200時間以上かかり学業との両立が大経験を振り返った」。

蹴球部アナライズ班

蹴球部は他大学に先駆け、対戦相手のシステムや戦術、セットプレーなどの分析に力を入れてきた。それが、日本代表チームのテクニカルスタッフ6人中5人を筑波大出身者が占め、今大会の学生によるサポートチーム結成にもつながっている。

2だった水戸ホーリーホックで選手を引退後、J-1のクラブで分析を担当した経験があり、分析の重要性をよく理解していた。就任翌年には蹴球部で分析を担当するパフォーマンス局アナライズ班を発定させた。

今年度は約2500人の部員のうち約20人が分析に携

変だったが、チームメイトと支え合いながらサポートした。現地で活動するスタッフから感謝のメッセージを受け取った時には、やりがいを感じた」と今回の経験を振り返った。

日比亜斗夢さん＝飯野歩撮影

わりの、専任者は8人いる。心は「スカウティング」と呼ばれる対戦相手の分析にアナライズ班を作り上げと、それに基づく戦い方の方提案にある。

他大に先駆け分析を強化

を持つ学生が多く集い、互いに切磋琢磨できる環境が「強み」と語る。

アナライズ班の活動の中で、担当者は対戦相手の直近3試合の映像や筑波大との直近の対戦試合の映像を目標として、相手チームの得失点

日本代表帯同スタッフに聞く

主に担当したのはベナル
 今大会の日本代表に帯同
 したテクニカルスタッフ6
 人中5人と、メディカルス
 タッフ6人中2人は筑波大
 出身だった。その中から、
 テクニカルスタッフを務め
 るから本格化させたとい
 う。

異なるプレーをしていないかなどをチェックし、コーチ陣に伝えていた。ハーフタイムの際などには、コーチを通じて選手に伝えることもあった。

W杯のオランダ戦での得点について「コーチと共に練習や試合でトライしてきた得点パターンの形に近く、間接的に貢献できた」と話す。

活躍した。卒業後は教員を目指していたが、「どうやって試合に勝つかを考える」とが好きて、分析の仕事をしてほしい」と一念発起。日本代表テクニカルスタッフを輩出している筑波大学大学院への進学を決めた。大学院では中山雅雄教授・体育系のサッカーコーチング論の研究室に所属、データを用いてJリーグとヨーロッパの

手として日々実践したことがコーティング論の研究につながっていた」と語る。

筑波大では蹴球部の門もたたき、アナライズ班のメンバーとして活動した。分析について何も分からない中から、一つ一つ学んだ日々だった」と振り返る。

この間、バリ五輪代表向けの分析にも携わり、大学院修了後の24年9月からは「

点について「コーチと共に練習や試合でトライしてきた得点パターンの形に近く、間接的に貢献できた」と話す。

今大会での活動や筑波大で
 徴を浮かび上がらせる。
 の学びについて聞いた。 画像などを使い、視覚的

テクニカルスタッフ
渡邊秀朗さん

テクニカルスタッフは対
戦相手や自チームの分析を
てられていたという。

A young man with dark hair, smiling, is shown from the waist up. He is wearing a black soccer jersey with white stripes on the sleeves and the word "HAIN" visible on the front. He is holding a multi-colored soccer ball with both hands. The background is a blurred outdoor setting with greenery and a building.

渡邊秀朗さん＝日本サッカー協会提供

「W杯優勝に向けて貢献したい」

多く、データ量も膨大になる中、求められる情報を素早く集め、選手に伝える経験を積めた。日本代表の目標であるW杯優勝に向けてこれからもテクニカルスタップとして貢献していきたいと将来を見据えた。

パターン、予想システム、フォーメーション、各選手の特徴などを分析し資料にまとめる。また、相手選手のプレーの特徴をまとめて編集した動画も作成する。これらを監督やヘッドコーチと共有して修正を加えるなどして、試合3日前に15分程度のプレゼンを選

手に行っている。

入学直後からアナライズ班に入り、W杯のサポートチームにも加わった日比さんは「ストリー性のある資料を作ること心掛けている。情報を取捨選択する勇氣を持つことも大切な。まずは筑波大を勝たせ、将来はJリーグのアナリストやコーチとして活動したい」と意気込みを語った。

現場でのスポーツ観戦が、来場した人と人の一体感や観戦の楽しさを生み出すのはなぜか。松井崇准教授(体育系)と山口峰史さん(体科P後期2年)らの研究チームは、その科学的な理由の一端を、筑波大主催のホームゲームイベント「TSUKUBA LIVE!」の来場者を対象にした実験で明らかにし



山口峰史さん



松井崇准教授

Hello!先端研究



中條智志さん=日本サッカー協会提供

メディカルスタッフ 中條智志さん 細井聡さん

日本代表メディカルスタッフとして活躍した中條さんと細井さんは、筑波大附属病院の整形外科で長年

勤務した宮川俊平教授(当時)の研究室に所属していた。宮川教授は蹴球部のチームドクターでもあったスポーツ医学の権威だ。2人ともアスレティックトレーナーとしんきゅう師、あん摩マッサージ指



中條智志さん=日本サッカー協会提供



細井聡さん=日本サッカー協会提供

でのスポーツ観戦中に、観客の唾液のオキシトシン濃度が高まるとともに、観客同士の心拍数の変動パターンも同期することが分かったのだ。

松井准教授は「スポーツイベントは、楽しさを土台として、薬に頼らずにオキシトシンを自然に働かせる場となる可能性

スポーツ観戦が生む一体感 オキシトシンの分泌促す

松井准教授らが注目したのがオキシトシンというホルモンだ。出産や授乳、恋愛の際などに分泌され、人と人とのつながりや社会性の形成に関わることが知られている。このため「愛情ホルモン」や「絆ホルモン」と呼ばれることもある。

今回の研究では、現地

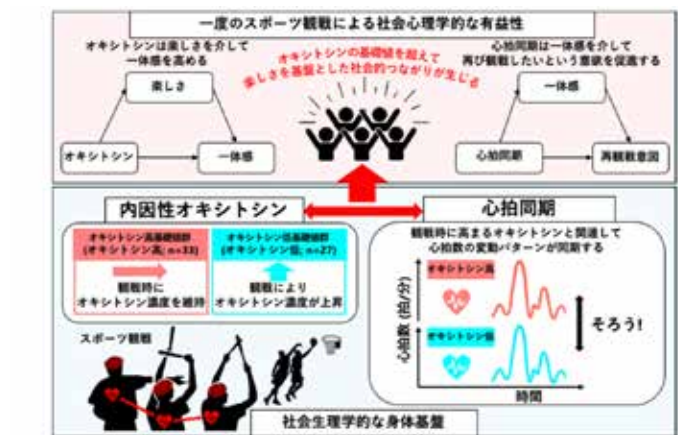
がある」と語る。

研究の舞台となったのは「TSUKUBA LIVE!」として

2023年に筑波大で行われた男子バスケットボールの2試合。各試合で成人観客60人(うち女性21人)を対象にした。

参加者には、試合の観戦前、ハーフタイム、観戦後の3時点で唾液を採

取してもらい、オキシトシンの濃度を測定した。また、観戦の楽しさや選手・観客との一体感などの心理指標も、質問紙に回答してもらう方式で評価した。さらに、観戦中は、上腕に装着してもらったセンサーで心拍数を連続記録した。



スポーツ観戦が楽しさを介して一体感を育む仕組み=松井准教授提供

ン濃度の変化は観戦前の濃度に応じて異なっていた。観戦前の濃度が低い人では観戦中から観戦後にかけて明確な上昇がみられた。一方、観戦前から濃度が高い人は、観戦を通じて高い状態が続いた。

さらに、観戦中には観客同士の心拍数の変動パターンが同期(シンクロ

と話す。今後は、座席の配置や会場の演出など、どのような工夫が一体感や没入感を高めるかを調べ、より豊かな観戦体験の提供につながる研究を続けるという。(野口聡太II地球学類1年)

けが予防からリハビリまで

期間中はスタッフ全員で、起床時に行う選手のコン

さらに試合中は、1人がベンチ、5人がロッカールームやスタンドで戦況を



細井聡さん=日本サッカー協会提供

ムに選手のリハビリをサポートした。細井さんは大会期間中、「選手がストレスなく試合に入れることを意識して行動していたという。中條さんは「大会を通じて若い選手の成長を感じた。W杯優勝という目標に日本代表がどうすれば近づけるかを考えながら、自分自身も成長していきたい」と大会経験を踏まえて語った。

細井さんは「選手たちは常に高みを目指している。自分自身も歩みを止めず、更なる高みを目指したい」と抱負を述べた。

試合前には、蹴球部員が希望する来場者に目の丸な

未来棟でPV

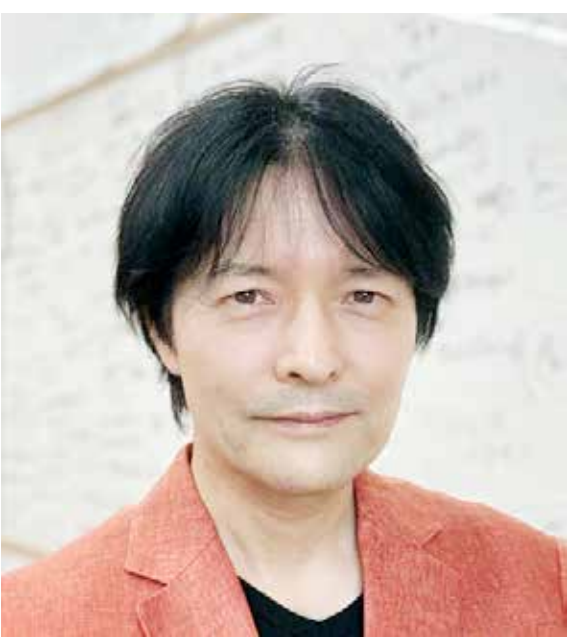
筑波大の未来社会デザイン棟で6月21日、今大会1次リーグの日本・チュニジア戦のパブリックビューイング(PV)が行われた。筑波大の学生団体「World Fut T」来場者との一体感を感じ



日本代表のゴールに沸く観客(6月21日、未来社会デザイン棟で)=井出千晴撮影

ゴールが決まるたび大きな歓声に包まれた。「World Fut T」来場者との一体感を感じ

失敗と間違いのすすめ



「教場」シリーズが人気作家 長岡弘樹さん

白くはならない。はて、どうしよう。他のアイデアなんか何もないし、もう何日も構想に費やしているのだから、

いぞ。出だしのアイデアに失敗した! 構想の方

今更引き返せないだろう。そう判断し、あれこれと筋をいじり続けてみるが、無理にこねればこねるほど話がつまらなくなっていく。

なかった。このネタを使ったらどうか。「ためらい傷」では平凡だが、「記憶のための傷」なら斬新で意外性もずっと強い……。

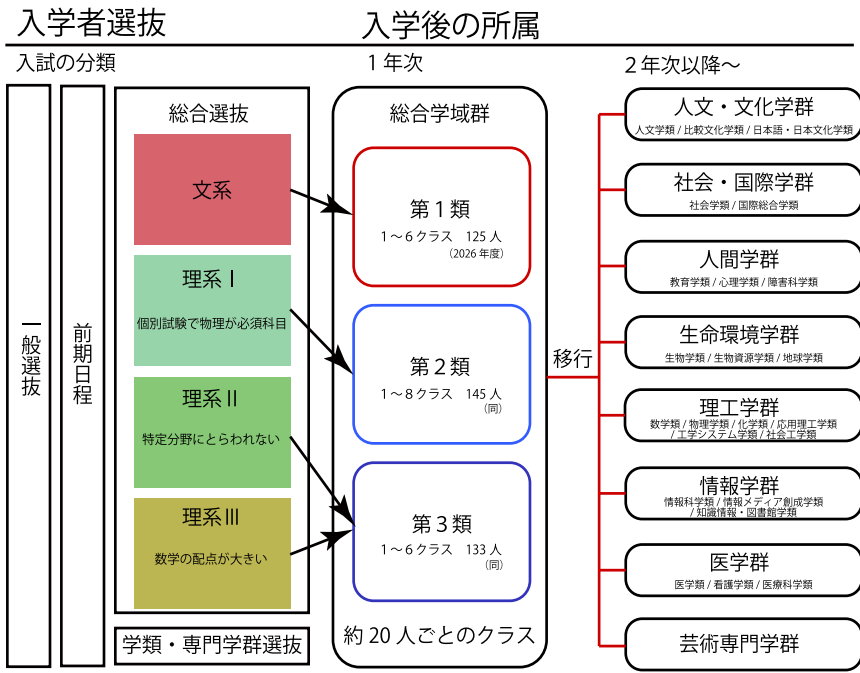
そこで、残された時間のうちに、その新しいネタを取り入れて改稿し、一編をどうにか仕上げる。前の原稿よりもまし

られるのがPVの良さだ。来場者が試合中継のスクリーンを笑顔で見て応援する姿に、準備の苦労が吹き飛んだ」と語った。

その成果と課題を追う

√ab

総合選抜・総合学域群について



専門を決めずに入学し、1 年かけて学類・専門学群を選ぶ総合学域群が開設から 6 年目を迎えた。今年の総合学域群のウェブサイトは「決めてないからこそ、見える未来がある」とうたっている。開設時から学域群長を務める山中弘特命教授や総合学域群出身の学生らに取材し、その成果と課題、今後の動向を追った。（大成夏生、鈴木華Ⅱ比較文化学類、金田愛希Ⅱ社会学類、山本貴世Ⅱ国際総合学類、川畑悠成、鈴木瑠季Ⅱ知能情報・図書館学類）

23 学類・専門学群に移行可能

総合選抜で入学した学生が 1 年間在籍するのが総合学域群だ。この間、幅広い学問分野を学びながら自分の興味関心や適性を見定め、2 年次の移行先を絞る。体育専門学群及び学際サイエンス・デザイン専門学群を除く 23 学類・1 専門学群に進むことができる。

総合選抜には文系、理系Ⅰ、理系Ⅱ、理系Ⅲの四つの選抜区分があり、募集人員は計 403 人（2026 年度）。理系Ⅰでは個別学力検査等で物理が必須科目、理系Ⅲでは数学の配点が高いなど、理系は選抜区分によって必須科目や科目の配点異なる。文系の選抜区分で受験した学生は入学後に第 1 類、理系Ⅰの学生は第 2 類、理系Ⅱと理系Ⅲの学生は第 3 類に所属する。移行先は、学生の成績などに基いて学類・専門学群が作成した「受入順位」と、学生の志望順位との組み合わせで決まる。各学類・専門学群の移行枠には、受験した選抜区分がある。

今年度は 62・2％の学生が第 1 志望の学類に移行した。また、第 3 志望までの学類・専門学群に移行した学生は同 86・3％だった。移行先は毎年 3 月に実施される本判定で決定する。本判定には一次判定と、一次判定で移行先が決まらなかった学生が対象の二次判定がある。

座談会参加者

- ◆山中弘学域群長
特命教授。
専門は宗教学。
- ◆秋山英三第 2 類長
システム情報系教授。
専門は進化ゲーム理論。
- ◆伊藤誠第 3 類長
システム情報系教授。
専門は認知システム工学。
- ◆仲村和士さん
研究生。2021 年第 3 類入学。1 期生。
- ◆鈴木大和さん
応用理工学学位プログラム前期 1 年。
22 年第 2 類入学。2 期生。
- ◆清重花奈さん
国際総合学類 4 年。23 年第 1 類入学。3 期生。
- ◆田村一花さん
生物学類 3 年。24 年第 3 類入学。4 期生。
- ◆下田春奈さん
知能情報・図書館学類 2 年。25 年第 1 類入学。5 期生。

移行者・教育座談会



清重花奈さん

清重さん 国際学の授業を取ったことで政治学の魅力に気付いた。国際総合学類に移行した。1 年間幅広い学問分野に触れたことで、なにか良い思い出があった。

仲村さん 1 期生だった。高校の時には思いもよらなかった進路に進めた。清重さん 1 期生だった。高校の時には思いもよらなかった進路に進めた。清重さん 1 期生だった。高校の時には思いもよらなかった進路に進めた。

「幅広い分野学習できた」

伊藤 3 類長 情報科学特別演習は、1 年生のうちから専門的な学問に取り組みたい情報科学類生向けに開講している。総合生が受けていたとは知らなかった。このように自分で道を切り開く学生がいるのはとてもうれしいことだ。

山中群長 初年度はガイダンスの実施なども試行錯誤だった。初年度に入学した仲村さんと、今の総合生とでは学域群の印象が変わっているのではないかと。

総合学域群に在籍していた学生は、どのような思いで 1 年間を過ごし、移行後はどのような学生生活を送ってきたのか。また、教員はどのように制度を構築、運用してきたのか。1～5 期生の学生 5 人と学域群長の山中弘特命教授、第 2 類長の秋山英三教授、第 3 類長の伊藤誠教授の 8 人で語り合ってもらった。【司会と構成は本紙編集長・川畑悠成Ⅱ知能情報・図書館学類 3 年、座談会は中央図書館で 8 月 19 日に開催】

総合学域群の良さは？



田村一花さん

「周囲の成績を意識」

司会 移行先を選ぶ上で苦労したことは何か。

田村さん 学類が受入順位を決める際に重視する重点科目は、高評価を得る必要があったため、周りの人が回ってこなかった。

どのくらい勉強しているかが気になった。クラスによつては学生同士で確認テストの過去問が共有されていたが、私のクラスにはなかった。

鈴木さん 私のクラスは過去問が回ってきたので、テストには有利だったと思う。良い成績を取りたいとみんなが思っている分、過去の有無が重要になるのは問題ではないか。

司会 教員の皆さんは成績や過去問についてどう考えているのか。

山中群長 移行先の決定では、成績上位者が優先されるため、成績不安や競争意識を抱えてしまうことは理解している。ただ、勉強する習慣が身に付き、移行後の学修にも生きたという話も聞く。全てがマイナス要素ではないと思っています。



秋山英三 2 類長

「授業選択の幅狭まる」

司会 移行後に大変だったことはあるか。

鈴木さん 1 年次に多くの単位を取得したが、移行先の卒業要件に含まれないものがあつた。

下田さん 移行生は、各学類の 1 年次必修科目を 2 年次に受講する。2 年次の必修科目と合わせると年間 45 単位の制限枠が埋まってしまい、履修したい授業が取れないことがあつた。

「友達作りで苦戦」

清重さん 友達作りが難しかった。元から学類にいた学生同士のコミュニティに入りこく打ち解けるのに時間がかかった。

仲村さん 総合で 45 単位の履修枠を開放するために定められていることもあり、単位数の問題もすぐに解決できないが、もう少し柔軟に対応したいと考えている。

伊藤 3 類長 1 単位当たりの学修時間が国によって定められていることもあり、基礎科目を履修できるのが総合の魅力だ。その分、移行後の負担をどこまで軽減できるかが大事になる。

「学生の声届いている」

司会 教員の皆さんは、学生から出たこうした意見を認識していたか。

山中群長 もちろん学生の声は届いている。人間関係については、移行する学類・専門学群が決まった後の移行式で、各学類の教職員や先輩学生にも出席してもらい、交流の場を作るようにしている。

秋山 2 類長 カリキュラムの問題を完全に解消するのは難しい。各学類の専門基礎科目を履修できるのが総合の魅力だ。その分、移行後の負担をどこまで軽減できるかが大事になる。

6年目迎えた総合学域群



センターの内部＝アカデミックサポートセンター提供

気軽に利用を

るが、予約が必要だ。同センターの専門スタッフによれば、今年度は8月25日時点で1087件の相談があった。特に年度初め、履修計画や移行に関する総合生の相談を受け付けている。今年4月だけで、新総合生402人、395人が1度は相談に訪れたという。

対応時間は午前9時から午後5時(午後0時15分から1時15分は休み)で、予約なしで利用できる。オンライン相談も受け付けている。

アカデミックサポートセンター

容や研究内容について十分に調べることが重要」と話す。

金沢大 総合教育部

学生が大学入学後に学びや経験を深め、自身の学びたい分野を明確にさせる教育システムは「トレイト・スペシャライゼーション(Trait Specialization)」と呼ばれる。金沢大は2018年、このシステムに基づき、総合教育部を開設した。

総合教育部長の滝野隆久教授は「学生らは、1年間の自由な学習を通して自身の学びたいことを明確にし、2年次以降、納得して学習に取り組める。移行後も広い視野を持って学習できる」とトレイト・スペシャライゼーションの効果を語る。

今年度の総合教育部の定員は146人で、内訳は文系68人、理系78人。文系は2年次に文理融合型の総合学域と文系の人間社会学域の計9学類に移行できる。一方、理系は融合学域、理工学域、医薬保健学域の計13学類に移行できる。所属学生には1年次の3月初めに移行志望調査を実施する。学生はその結果を参考にしながら進路登録をする。移行先の学類は各学生の希望と移行点の対象となる科目の成績によって決定される。

康面、アカデミック・アドバイザーは履修科目などの相談に応じしている。同大教育支援課の担当者は「学生が学類に移行後のミスマッチを減らすため、1年次の履修や学習に対する指導を強化していく」と話す。

また、文系のアカデミック・アドバイザーを務める西川未来助教は「入学後の幅広い学びを経て専攻を決めるシステムが全国の大学に広がることで、各大学独自のトレイト・スペシャライゼーションが生まれる。筑波大の取り組みについて注目している。他大学との情報交換を通し、より良い形を模索していきたい」と語った。

「総合学域群を開設した経緯は。今の社会は複雑で、変化のスピードも速い。そのような時代だからこそ、一つの専門性を深めるだけでなく、幅広い分野に関心を持ち、多様な視点から物事を考えられる力が求められている。受験段階での文系・理系という枠組みにとらわれず、広い視野を持って学



座談会の様子(8月19日、中央図書館で)＝鈴木華撮影

「常に試行錯誤している」

は、移行に必要な成績のレベルが5年前と比べてかなり上がっている。1年間考えながら選べるはずなのに違和感がある。第1志望に移行できる学生の割合も少ないと感じる。2、3割の学生が不本意な学類に移行してしまう制度は問題だ。山中群長 希望する学類



山中弘学域群長

への移行について不安や課題を感じている学生がいることは認識している。総合の理念と移行制度とのバランスについては、今後も検討していく必要がある。また、せっかく総合で学際的に学んでも、移行後は専門的な学問を進めることになり、学びを生かされない部分もある。総合はまだ6年目であり、より良い仕組みとなるよう常に試行錯誤している。



仲村和士さん

かるため、具体的な研究内容の発表に重点を置くようになった。研究活動の実態や魅力が伝わりやすくなったことで学生の関心が高まり、学生からの質疑応答も多くなるようになった。

下田さん ガイダンスは難しい研究内容の話もあったが、非常に興味深かった。ただ、日程が新入生歓迎祭と被っていた。サークルの様子も気になっていた。サクルの残念だった。

山中群長 学生から相談もあり、新入生にとってサークルが大事なことは理解している。具体的なイメージをお聞きたい。

「国際性のある組織に」

山中群長 総合学域群の将来像をお聞きたい。



鈴木大和さん

た研究大学として発展していくために、総合学域群がどのような役割を担うべきかを議論している最中だ。



伊藤誠3類長

伊藤3類長 研究成果を出すには、1年生から専門的なことをやらせた方がよいという意見もあるが、さまざまな視点と角度からものを考えることが、研究力向上には大事だと思っている。そうした教育組織を志向していきたい。

山中群長 総合の本当の評価は10年、20年後に分かってくるはずだ。今回いただいた意見も参考にしながら、足りないところを改善し続けたい。

「幅広く学問に触れて」

山中学域群長インタビュー

座談会後、本紙は改めて総合学域群長の山中弘特命教授に、開設から6年間の歩みや今後の課題についてインタビューした。

——総合学域群を開設した経緯は。

今の社会は複雑で、変化のスピードも速い。そのような時代だからこそ、一つの専門性を深めるだけでなく、幅広い分野に関心を持ち、多様な視点から物事を考えられる力が求められている。受験段階での文系・理系という枠組みにとらわれず、広い視野を持って学

——6年目を迎え、うまくいったと考えていることはあるか。

入学時の入試区分を越えて、文系から理系、理系から文系へと移行する学生も見られた。本来の狙い通り、自分が思っていたような学びを提供できたことは良かった。

——学生からの要望や不満はどう対応しているか。

詳細な内容は検討中だ。定員数や年間の取得単位の上限など構造的な問題は変えるのが難しい。ただ、ガイダンスや移行式など学生に提供するサービスは毎年、改善してきた。特に夏季ガイダンスには力を入れ

ひらのば

写真で HIRA-NOVA 探検

テーブルや鍵付きロッカーなどが備えられている。登録会員となり、月決め料金を支払えば、開館中はいつでも利用できる。11月に一般利用が始まる。非会員の利用も検討中だ。＝碓井美弥子撮影



正面玄関を入ってすぐ右にある階段状の客席で、約 100 人が座れる。前方には大スクリーンを下ろせる。階段下のスペースでパフォーマンスなども行える。＝壬生奏太撮影

誰でも使えるシェアオフィス

開館時間

- ・授業開講日 午前 9 時～午後 10 時
- ・土日祝日 午前 10 時～午後 10 時
- ・長期休暇中 午前 10 時～午後 7 時

○1 階は飲食可、2 階はふた付きの飲み物のみ持ち込み可

○コミュニケーションスペース、ソロワークスペース、グループワークスペースをはじめとしたオープンスペースは無料で利用可（予約がある場合を除く）

○予約（占有利用の申請）の流れは下記 URL 参照

<https://www.stb.tsukuba.ac.jp/~miraishakai/reservation/>

大判プリンター 2 台と 3D プリンター 1 台が設置されている。広さは約 100 平方メートル。会員制で貸し出す予定だが、開始時期は未定。＝川畑悠成撮影



クリエイションスペース

創作活動に没頭

汎用性イベントホール



座席数は 228 席。電動で出し入れできる。全てを収納すると、約 350 平方メートルのフロアとなり、立食パーティーなどに使える。体を動かすイベントにもぴったりだ。＝碓井美弥子撮影

グループワークスペースで議論



天井が高く、開放的な空間が広がる。移動式のホワイトボードに加え、机の天板もホワイトボードになっており、議論などに使いやすい。予約が入っていない時は自由に利用できる。＝松尾有姫撮影

大階段が観客席に

「（「屋根の下（Under "One's Roof"）」をコンセプトにした未来社会デザイン棟（愛称：HIRA-NOVA）が今年 5 月、平砂地区に開所した。学生宿舍エリアのシンボル施設として、筑波大生が企業や地域と日常的に交流する場となることが期待されている。その実現に向け、イベントホールからシェアオフィス、3D プリンターなどを備えたクリエイションスペース、フィットネススペースなどまで、さまざまなスペースや設備が用意された。いずれも、学内者は学外者より低料金で利用できる。運営を担う事業推進チームの石井誠・チーム長（資源 P 前期 1 年）は「利用者はそれぞれのワークする未来に向け、各スペースを自由にデザインしてほしい」と話す。その内部を写真で巡ってみよう。（松尾有姫＝比較文化学類、惣田堅斗＝心理学類、壬生奏太＝地球学類、碓井美弥子、川畑悠成＝知識情報・図書館学類、写真はいずれも未来社会デザイン棟で）

六つのスペースを一緒に探検しよう！



本紙マスコットキャラつくし

フィットネス



ローイングマシンが 2 台、エアロバイクとランニングマシンが各 3 台設置されている。器具の貸し出し時期は未定。スペースのみの貸し出しは 10 月から始まる。＝惣田堅斗撮影

スペースで息抜き

構内駐車違反の取り締まり強化 学内規則見直しも検討

筑波大構内の駐車場の無断利用に対する取り締まりが今年 6 月から強化された。教職員や学生が構内の駐車場を利用するには、筑波大学交通安全会に会費を払って会員となったうえで、許可を得た駐車場のみ利用できる。だが、西地区の医学エリア駐車場などで違反車両が増え、会員が許可を得た駐車場を利用できなかったり、外来者が専用駐車場を使えなかったりする事態が生じているという。

は収容可能台数より許可者数が多いが、病院勤務の昼夜交代により運用が成り立っているという。

医学エリアの駐車場には、ゲート管理されていない駐車場も多くあり、学生が夜間に研究などで来て空いている駐車場を無断利用している違反車両件数は減少傾向にあるが、医学医療系の教員からの要望で取り締まりを強化した。違反車両への対応を定めた学内規則の見直しを進めたい。違反者には入構手続きをきちんとするよう求めたい」としている。

（壬生泰太 写真も）

国際交流会館 28 年運用開始へ

「食」を通じておもてなし

無断利用車両については、交通安全会の委託を受けた警備会社が対応している。見つかった場合は、警告書を車両に貼付し、ナンバーをチェックする。違反の悪質さに応じて違反点数を計算し、累積 7 点となった車両については、施錠して動かせなくすると警告する。

筑波大は平砂地区に「国際交流会館（仮称）」を建設する方針を決めた。フー・ド・コートのような飲食・交流スペースと日本食を中心とした「おもてなし」機能を備えた、「食」を通じて人と人の交流が生まれる場とする。近接する未来社（学）デザイン棟（HIRA-NOVA）やスーパーマーケットのカスミ、サザコーヒーとも連携し、平砂地区を筑波大の新たな中心地として育てていく。今年度中新棟利用者の増加により需要が高まった。同エリアでこの運用開始を目指す。



医学エリアの駐車場（9 月 18 日、医学エリアで）※画像の一部を加工しています。

筑波キャンパスには、北▽中▽南▽西▽春日の 5 地区に計 8033 台分の駐車場がある。うち 6622 台分を交通安全会が管理しており、利用許可済みは 5781 台（6 月末現在）。

交通安全会によれば、近年、無断利用が目立つのが西地区の医学エリアだ。2012 年に筑波大附属病院のけやき棟が建設され、新棟利用者の増加により需要が高まった。同エリアでこの運用開始を目指す。

愛称は HIRA-NOVA に 山内さん（令和 7 年度修了）提案

未来社会デザイン棟

未来社会デザイン棟の愛称が「HIRA-NOVA（ひらのば）」に決まり、愛称の提案者に対する表彰式が 7 月 28 日、同棟 1 階の大階段で行われた。

愛称の募集は、筑波大の在学生を対象に昨年 11 月 28 日から 1 月 15 日にかけて行われた。教育情報システム「TWINs」上で在学生によるオンライン投票を経て、最優秀案 1 作品、優秀案 2 作品が最終決定され、今年 4 月に公表された。

最優秀賞には「HIRA-NOVA」を提案した山内翔真さん（令和 7 年度環境科学学位プログラム修了）、優秀賞には「TSUKUBA-X（つくばクロス）」を提案した神宮里奈さん（令和 7 年度英語教育



優秀賞を受賞した壬生さん（中央）（7 月 28 日、未来社会デザイン棟で）

了、優秀賞には「TSUKUBA-X（つくばクロス）」を提案した神宮里奈さん（令和 7 年度英語教育学サブプログラム修了）と「つくば未来ひろば-TSUKUBA Mirai Plaza（つくばみらいプラザ）」を提案した壬生泰太さん（地球 3 年）がそれぞれ選ばれた。

表彰式には受賞者の壬生さんと未来社会デザイン棟の事業推進チーム長を務める石井誠さん（資源 P 前期 1 年）らが出席した。壬生さんには千葉親文副学長（学生担当）から表彰状や記念品が贈られた。欠席した 2 人の受賞者には、郵送された。

山内さんによれば、HIRA-NOVA の「HIRA」には、平砂地区にある

「開かれた大学」と未知の世界を切り「拓く」という意味をかけた。それに、「新しい」や「新星」を意味する「NOVA」を結びつけたという。

山内さんは本紙の取材に「平砂の歴史を受け継ぎつつ、多様な知が交わり新星のように輝くアイデアや人材が生まれる場として、HIRA-NOVA が長く愛されることを願っている」と話した。（望月柚那 比較文化学類 2 年、写真も）

筑波大学新聞

TEL:029-853-6699
E-mail:shinbun@un.tsukuba.ac.jp
活動場所：共同利用棟D104

新人記者募集中

取材執筆編集撮影イラスト

エアコン設置で混乱 学生宿舍 大学が直接対応

今年の学生宿舍のエアコン設置を巡って混乱があった。5月に入り、入居者から、宿舍のエアコンのレンタル事業を行っている「つくば電気空調」(本社・つくば市栗原)にレンタル契約の依頼が相次いだ。同社は対応しきれず、受け付けが停止された。このため、学生生活課が居住者に調査を実施し、希望者の部屋に設置する対応をとった。筑波大は当初、今年4月に宿舍利用料を値上げし、エアコンを各居室に順次設置する予定だった。値上げ延期に伴い、エアコン設置も延期されたが、それを知らなかった学生が一定数いたことが原因とみられる。

(壬生泰太)

同社の担当者によれば、例年は4月1日までの事前予約と入居日での予約が契約の大半を占める。設置作業は5月の大型連休ごろまでに終わってきた。

ところが、今年は大学によるエアコン設置が予定されていたこともあり、レンタルエアコンの積極的な広告が行わず、注文数に応じた作業体制を決めていた。5月以降、入居者からの申し込みが相次いだ。対応しきれなくなったという。5月以降に申し込みが増えたのは、学生生活課が5月1日付で「現時点ではエアコンの設置時期は未定」とする通知を出したことが関連していると考えられる。

では当初より未定としていたが、学生や父母らから、設置時期に関する問い合わせが寄せられたため、通知を出した」と説明する。その後、例年より遅れて業者への申し込みが相次ぎ、対応できない事態となった。同課はこの状況を受けて、6月9～16日、宿舍入居者を対象にエアコン設置状況に関する調査を実施。126人が値上げ前でも設置を希望すると回答したため、大学としてエアコンの設置を進めることにした。

6月26日の第1次締め切り時点で102人、7月3日の第2次締め切り時点で23人の申し込みがあり、7月10日までに設置を終えた。その後も申し込みを受けて設置を進めている。大学が設置したエアコンの利用料は月額2500円。一方、同社からのレンタル料は、設置階などに応じて年間2万5000円(1階)～6万7000円(5階・ランダム)となっており、別途保証金1万円が必要だ。2年目以降の継続利用は料金が割引かれる。

「気を付けて受け取ってね」「はい」。今年3月初めインドネシア・ジャワ西部にあるジャカルタ首都圏の都市タングランで、ボランティアサークル「LUZ(ルスのメンバーたちが、コンクリートブロックをリレー形式で運んでいた。世界60カ国以上で住環境問題の解決に取り組む国際NGO「ハビタット・フォー・ヒューマニティ」の一員としての活動だ。現地では日雇いの労働者として働く男性(43)とその家族計5人用の住宅を建設するため、メンバー13人でプログラムに参加した。

LUZは2017年春に同NGOの筑波大支部として設立された。現在のメンバーは学群1～3年生計57人。社会・国際学群所属が最も多い。LUZ代表の宮川航輝さん(応理3年)は「感謝の言葉をもらい、自分たちの活動によってボランティア先に希望が届いていることを実感した。家を建てて終わりではなく、そこに住む人や、周囲のコミュニティとのつながりを得られるのが嬉しい」と話した。

ア(GV)で、長期休暇を利用して東南アジアの国々へ出向く。このほか、茨城県内を中心に地域でのボランティア活動やイベントの企画・運営などにも取り組んでいる。毎年7月と11月ごろには、つくば市みどりの中央公園で開かれる地域イベント「マルシェ88」に携わり、会場の設営などを担っている。今年7月からは、「まつりつくば」の名物出し物である「ねぶた」の土台製作を加え、何となくボランティアに興味がある人も気軽に来てほしい」と参加を呼びかけた。(金田愛希II社会学類3年)

トイレに生理用品設置 プロジェクトFLOW

筑波大のジェンダーサークル「SODA」が、生理用品の共有コーナーを学内のトイレに設置するプロジェクト「FLOW」を今年度から始めた。現在は1H棟1階の女子トイレと多目的トイレのみへの設置だが、中央図書館への設置も検討中だ。将来的には、キャンパス内の各エリアに設置することを目指しており、同団体は「大学を利用するあらゆる人が困った時に、生理用品にアクセスしやすい環境を整えたい」として

このプロジェクトは、同団体の西涼さん(社会学4年)の「家に忘れてしまった時に、高校生の頃より生理用品を手に入れるのが難しくなった」という問題意識から始まった。高校では周囲の友人から借りられたが、大学の友人と別行動をする機会が多く、頼れる人を見つけないという。1日棟を最初の設置場所を選んだのは、所属する社会学類の授業で使われることに加え、他学類の学生や

外部からの利用も多いと考えたからだ。2カ所のトイレには、軽日用、多日用、夜用の3種類の生理用品が置いてある。生理用品を入れたケースに示されたQRコードから、利用のきつかけなどのアンケートに回答すれば、だれでも使える。利用者には、余裕がある時に使った分のナプキンを戻すよう呼びかけている。女子トイレの場合、1週間に10枚程度の利用がある。

西さんによれば、英語の



1H棟1階女子トイレに設置されている生理用品=SODA、提供

「flowには「供給される」といった意味合いもあり、必要とする人のもとへ、いずれば補充をしながらも生理用品が届くようにしたい」という願いを込めて、プロジェクト名にしたという。

このサイクルがうまく回れば、プロジェクト名の由来の通り生理用品の補充が必要になる仕組みだが、アンケートの回答率や、生理用品の返却率が低いことが課題だ。このため、筑波大

LUZ

「困っていたら助かった」などの声も寄せられ、FLOWの意義を改めて感じることがあるという。プロジェクトの最終目標は生理用品を大学が備品として設置することだ。西さんは「トイレレットペーパーと同様に、生理用品は設置されて当然という認識が広まってほしい。筑波大の構成員の多くが当事者であり、一人で負担を抱えることがなくなるよう、大学側に生理用品の備品化を求めている」と今後の展望を語った。(岡田蓮II社会学類1年)

留学生の声

中国

内モンゴル自治区

趙迅

人文学学位
プログラム

中国内モンゴル自治区の北東部に位置するヒンガン盟ウランホト市出身だ。2024年10月から人文学学位プログラムの日本語学領域で音韻論を学んでいる。

音韻論では、音声がどのように配列され、それがどのように意味の区別を持つかを研究する。中国の黒龍江大日本語学科で学んだ。1、2年

国内外でボランティア



インドネシアで家のブロック壁を作るメンバー=LUZ 提供

いが込められている。現在のメンバーは学群1～3年生計57人。社会・国際学群所属が最も多い。LUZ代表の宮川航輝さん(応理3年)は「感謝の言葉をもらい、自分たちの活動によってボランティア先に希望が届いていることを実感した。家を建てて終わりではなく、そこに住む人や、周囲のコミュニティとのつながりを得られるのが嬉しい」と話した。

「ねぶた」の土台製作を加え、何となくボランティアに興味がある人も気軽に来てほしい」と参加を呼びかけた。(金田愛希II社会学類3年)



研究の息抜きはチェンバロとクラビコードの演奏に参加し、自ら研究発表も行っている。「日本語と中国語は似た音を持っていたので、オノマトペに引きかれて

入学後は国内外の学会やワークショップに積極的に参加し、自ら研究発表も行っている。「日本語と中国語は似た音を持っていたので、オノマトペに引きかれて

「将来は日本の大学で音韻論を教え、オノマトペをはじめとする言語現象の面白さを伝えたい」。その夢に向けた歩みを著実に続けているようだ。(大竹翔II社会学類3年 写真は本人提供)

10月1日が全学休講日に 秋入学者のオリエンテーションで

筑波大は来年度から10月1日を全学休講日とする方針を決めた。教育組織によつては秋季（秋学期）入学生向けのオリエンテーションを実施するという。教育推進部によると、4月に入学する新入生については、入学式から授業開始日まで1週間程度余裕があり、この間にオリエンテーションが行われている。オリエンテーションでは、学生生活全般や履修申請の方法、教育情報システム「T WINS」の使い方などについて説明を受ける。

一方、秋季入学生については現在、9月30日が入学式で、翌10月1日から授業が始まる。このため、入学式当日の午後などにオリエンテーションが行われている。教育組織からは「秋季入学生についても授業開始前にオリエンテーションに充てられる日を少なくとも1日確保したい」などの意見が出ている。

同部の担当者は「10月1日を休講日とすれば、オリエンテーションの実施に加え、秋季入学生が履修科目を検討する時間が増える」としている。

10月1日を全学休講日とする事で、冬季休業期間の開始日が1日後（例）になるが、昨年度で期末試験週が廃止されたため、冬季休業期間の開始日は以前より早いという。（王生泰太）

研究機関等合同説明会 博士後期課程の学生向けに



出展機関ごとに設けられたブースで説明を受ける参加者ら（7月8日、未来社会デザイン棟で）＝BHE 提供

ヒューマンエンパワーメント推進局（BHE）は博士後期課程の学生に向けた「研究機関等合同説明会」と、学群生などを対象とした連携大学院・協働大学院の進学説明会を7月8日、未来社会デザイン棟で開いた。気象研究所や産業技術総合研究所、医薬品医療機器総合機構など計15機関が出展し、大学院博士後期課程の学生を中心に116人が参加した。

当日は、出展機関ごとに個別ブースが設けられ、研究機関の合同説明会と連携・協働大学院の進学説明会を交互に実施する形式で行われた。

参加した学生からは「研究職について職員から直接話を聞くことができ、進路のイメージが湧いた」「将来の選択肢として考えた」との声が聞かれた。連携大学院は研究機関の研究者を大学の教員として迎え、その機関の研究環境を活用しながら指導する大学院教育。協働大学院は筑波大と複数の研究機関が形成した「コンソーシアム」を母体とし、協働して研究を指導する。

進学説明会では、各機関のブースで、進学後の研究内容などが紹介された。

加藤光保プロボストは「今年は多くの学生に参加してもらえてよかった。つづいては、各研究機関の壁を越えて共同で研究や教育をしていくという機運が高まっている。建学の理念にもある『国内外の教育・研究機関及び社会との自由、かつ、緊密なる交流関係』の実践になった」と話した。（王生泰太）

共通科目英語の運用適正化要望

今年度の「学長と全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議（全代会）」構成員との懇談会（茶話会）が7月9日、未来社会デザイン棟イベントホールなどで開かれた。全代会側は共通科目外国語（英語）の運用適正化を大学側に要望するとともに、設置から約50年を迎えた宿舎の今後の在り方について、学生宿舎五十年の計と題した提言を行った。

（王生泰太、写真も）

全代会 学長懇談会で

共通科目外国語（英語）の授業は4月入学時のプレースメントテスト（TOEIC・IPテスト）に基づき、習熟度別のクラス編成がなされている。「教育課程編成支援システム（K d B）」に掲載されている統一シラバスは、同一科目として共通の学修項目を掲載している。統一シラバスで設定した項目に基づき、各担当教員が授業計画を作成し、クラスに応じた教材や方法を用いて授業を実施している。

これに対して、加藤光保プロボストらは「学生の声を授業に反映していくため

にも、授業評価アンケートに積極的に回答してほしい。現在は回答率が低く、残念だ」などと応じた。

「学生宿舎五十年の計」では、学生と教職員が宿舎

に関する協議する会議体として「宿舎委員会」の設立を要望した。また、宿舎生同士のコミュニケーションが希薄になっているとし、その活性化と学生が主体的

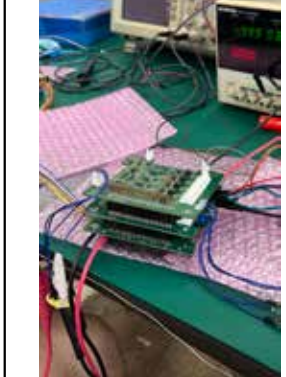


学生の提言に回答する加藤プロボスト（7月9日、未来社会デザイン棟で）

追跡「結」プロジェクト
筑波大生を中心に超小型衛星「TSUKUTO」の開発を進める「結」プロジェクト。今年8、9月にかけて、実機（フライトモデル、FM）の設計完了に向けた「エンドツーエンド（E2E）試験」と「振動試験」が行われた。プロジェクトマネージャー（PM）の今泉志常さん（エシス4年）によれば、二つの試験を条件付きでクリアしたという。今回の結果を踏まえて一部修正した設計を、「結」の担当教員

である航空宇宙システム工学が専門の亀田敏弘教授（シス情系）と東京都立大学の佐原宏典教授が詳細な設計を確認した。今回の試験には、佐原教授が主宰し、「結」と共にTSUKUTOを開発している東京都立大学宙システム研究室のメンバーも参加し、総合研究棟B内と工学系H棟で実施された。

E2E試験では、衛星を国際宇宙ステーション（ISS）に運び、ISSから機体を放出、軌道上で運用するまでの全ての工程を、FMと同じプログラムや構造で設計した機体（プロトフライトモデル、PFM）を使って検証する。



基板にプログラムを書き込んで試験する＝同プロジェクト提供

最終段階の試験実施
振動試験は衛星の打ち上げ時に加わる振動が機体に影響を与えないかどうかを、PFMにさまざまな振動を加えて確認する。試験では機体の寸法が設計値を超えてしまう（同4年）は「気づかなければ、衛星の電力収支がマイナスになる異常につながっていた。試験を繰り返しながら修正したい」と話した。

都立大側は、TSUKUTOが宇宙空間での実証を目指す新たな軌道制御法や衛星の異常検知技術の開発に携わっている。今回の試験に参加した伊藤真真さんは「結」にはISSからの衛星放出実績があり、開発に必要な幅広い知識を持つ。異なる経験を持つ学生同士の交流は重要だ」と共同開発の意義を語った。

今泉さんは「開発は約7割が達成された。残りの3割も、試験によって直すべき点が明確にできた。それを修正し、設計が確定すれば、FMの製作に取りかかれる」と、TSUKUTO完成への手応えを感じていた。（吉田花井日本語・日本文化学類2年、青野心平物理学類4年）

広告欄

掲載のお問い合わせは

shinbun@un.tsukuba.ac.jp

までお願いします。

男子 400m 林が 2 位 日本選手権 学生記録を更新



400m で学生新記録を樹立した林 = 本人提供

日本選手権が 6 月 12 から 14 日にパロマ瑞穂スタジアム（名古屋市瑞穂区）で開かれた。筑波大の林申雅（体専 4 年）が男子 400m で学生新記録を樹立し、決勝で 2 位となった。また、西岡尚輝（同 2 年）が男子 100m で決勝で 2 位となり、それに先立つ準決勝で 10 秒 09 の筑波大新記録をマークした。筑波大勢はこの 2 人をはじめ計 9 種目で 9 人が入賞した。

陸上



その思いの通り、13 日の予選で学生記録の 45 秒 03 を 0 秒 05 上回る 44 秒 98 を記録し、決勝に進出した。14 日の決勝では後半の 200m から 300m まで順位を上げた。最後の直線で中島佑気（ジョセフ（早稲田））にかわされたが、45 秒 75 で目標の 2 位以内に入れてうれし」と話した。



スプリント個人で日本人女子トップになった山本 = 本人提供

山本は「JWOC は 4 度目の出場だった。例年より良いコンディションで大会を迎え、落ち着いてレースを進められた」と大会を振り返り、「来年 3 月の日本学生選手権（インカレ）では、ミドル部門とリレー種目で優勝したい」と今後の意気込みを語った。

（望月柚那）



決勝戦で大内返で一本を取るトーレス（上）（6 月 27 日、日本武道館で） = 川畑悠成撮影



女子団体準優勝 優秀選手にトーレス、田中

【日本武道館（東京都千代田区）で川畑悠成（知識情報・図書館学類 3 年、井出千晴（インカレ）が 6 月 27、28 日に開かれた。筑波大女子が準優勝し、女子 57kg 級のトーレス・カミラ（体専 3 年）が優秀選手に選ばれた。筑波大男子は 5 位入賞し、男子 73kg 級の田中龍雅（同 4 年）が優秀選手になった。

柔道



女子は 5 人制で行われ、先鋒・次鋒は 57kg 級以下、中堅・副将は 70kg 級以下、大將は無差別で選出する。筑波大女子は準決勝で環太平洋大と対戦。先鋒の福永葉子（同 3 年・女子 52kg 級）が指導三つの反則勝ちを収めたが、次鋒のトーレスは袖釣込腰で有効を奪われ、優勢負けした。残る中堅、副将、大將はいずれも引き分けて 1-1 となったが、反則勝ちが一本扱いとなる規定により筑波大が内容で上回り、決勝に駒を進めた。

決勝の相手は東海大。先鋒の福永は、内股すかしや足車など積極的な技を仕掛け続けたが、決めきれずに引き分けた。

次鋒のトーレスは、同じ階級で昨年の全日本学生体重別選手権（個人インカレ）優勝者、本田里来と対戦。互いに攻めあぐねる展開が続いたが、残り 1 分 39 秒で本田が大内刈を仕掛けてきたところを、カウンターで大内返を決め一本勝ちした。

しかし、中堅の佐竹優芽（同 1 年・女子 70kg 級）が引き分けに終わると、副将の岡本紗季（同・女子 63kg 級）は相手の裏投で一本負けし、試合は振り出しに戻った。最後の大将戦には井上朋香（同 2 年・女子 78kg 超級）が登場したが、内股と袈裟固で技ありを続けて奪われ、合わせ技一本負けし、2000 年以降の優勝を逃した。

トーレスは決勝を振り返り、「昨年、別の大会で負けていた相手だったので、一本が決まった瞬間は喜びよりも驚きが大きかった。大会直前にけがをしたが、自分らしい柔道ができて自信につながったと話した。

柔道部の岡田弘隆総監督（体育系・准教授）は女子の結果について「トーレスの一本勝ちから有利な流れを作れたが、力の強い相手に岡本が投げられた。大将戦は、井上が不意を突かれた。10 月末の全日本学生体重別団体優勝大会で雪辱を果たしたいと振り返った。筑波大男子の試合は、東洋大との 4 回戦で大きな盛り上がりを見せた。



男子団体準優勝 山口 女子遠的に準優勝

弓道



全日本学生選手権（インカレ）が 8 月 18 から 20 日にテリンアリーナ神戸（神戸市須磨区）で行われ、筑波大が男子団体で準優勝した。また、21 日には全日本学生選の選手権が神戸総合運動公園球技場（同）で開かれ、女子個人で山口慧花（体専 1 年）が準優勝した。

（望月柚那）

学生選手権は、28 日離れるところから直径 36m の的を狙う近的に競われた。団体戦は 5 人 1 チームで、1 人 4 射計 20 射を行う。筑波大男子は 18 日の団体予選で 20 射 18 中の成績を上げ、桜美林大と並んでトップで通過した。決勝トーナメント進出は 4 年ぶりだった。

決勝トーナメントでは 2 回戦から出場し、16 日 9 で東北学院大に勝利。3 回戦も宇都宮大に 17 12 で勝利した。

準決勝では、札幌学院大と対戦。本戦は 14 14 の的中数が並び、競射と呼ばれた延長戦にもつれ込んだ。しかし、1 人 2 射の競射で



賞状を手に準優勝を喜ぶ男子部員 = 弓道部提供

スプリントリレー 日本が過去最高
山本が 1 走で貢献 世界ジュニア
オリエンテERING
「ジュニア世界選手権」JWOC 2026 が 6 月 29 から 7 月 4 日にスウェーデン・カールスクルーナで開催された。20 歳以下を対象の世界大会で、日本代表

計 11 人のうち筑波大からは佐藤仁（エンス 3 年）、堀田真敏（生物 3 年）、山本美沙（人文 2 年）の 3 人が出場し、健闘をみせた。大会では、市街地など 3 程度のコースを走るスプリント（男女別）▽スプリントコースを走るミドル（男女別）▽10 程度の山野コースを走るロング（男女別）▽1 人当たり 4 から 5 程度の山野コースを 3 人でつなぐフォレストリレー（男女別）の 5 部門でタイムを競った。

1 日目に行われたスプリント女子では、山本が 19 分 8 秒でゴールした。全体では 1 13 位だったが、日本人女子でトップだった。2 日目のスプリントリレーでは、山本が JAPAN1、佐藤が JAPAN2、堀田が他国との混成チームとして出場。山本が 1 走を務めた JAPAN1 は 59 分 24 秒で全体 31 位（国別では 22 位）となり、日本人チームとして歴代最高成績を収めた。

3 日目の男子ロングでは堀田が 1 11 分 7 秒、91 位でゴールし、2 桁順位に入る好走を見せた。

山本は「JWOC は 4 度目の出場だった。例年より良いコンディションで大会を迎え、落ち着いてレースを進められた」と大会を振り返り、「来年 3 月の日本学生選手権（インカレ）では、ミドル部門とリレー種目で優勝したい」と今後の意気込みを語った。

（望月柚那）



女子50メートル自で溝口が連覇 100メートル自と2冠

日本学生選手権(インカレ)が9月3〜6日に東和薬品RACETABドーム(大阪府門真市)で開かれた。溝口歩優(体専3年)が女子50メートル自由形を連覇し、初優勝した。100メートル自由形との2冠を達成した。また、女子800メートルフリーレーには村山萌(同1年)、小俣みなも(同2年)、杉本妃鞠(同3年)、神谷菜那(同4年)が出場し、8位入賞した。男子の入賞はなかった。(山本貴世)国際総合学類4年、望月柚那

水泳競技

溝口は3日正午過ぎに行われた女子100メートル自由形予選を55秒08で1位通過した。同日夕の決勝でもスタートから先頭立った。一時は3人が並ぶ接戦となったが、予選を上回る54秒56をマークして競り勝った。自己記録と筑波大女子歴代記録を大きく更新した。今後は24秒台を目指した。



金メダルを手に表彰台で笑顔を見せる溝口＝本人提供

たことが結果につながったと大会を振り返った。◆全国公立大学選手権は8月7〜9日にパールスアクラブ宮崎(宮崎市)で行われた。筑波大勢は男子200メートルメドレーで堀井亜生登(体専1年)が大会新記録の2分01秒82で優勝するなど男子が11種目、女子が14種目で優勝し、男女とも総合優勝した。



小柳が3位 「悔しさ残る」

【日本武道館(東京都千代田区)で鈴木華二比較文化学類2年、惣田堅斗(心理学類3年、16面に関連写真)】学生剣道の個人日本一を争う全日本学生選手権と全日本女子学生選手権が7月4、5日に行われた。筑波大からは男女計11人が出場し、5月の関東学生選手権で優勝した小柳宏成(体専4年)が3位入賞した。同月の関東女子学生選手権で準優勝した岩原千佳(同)はベスト16で敗退した。

剣道

小柳は2回戦から出場し、準々決勝までの計5試合中4試合で二本勝ちした。「誰が相手でも攻めきる気持ちで試合に臨んだ」という。準決勝では日本大の池田稀羅と対戦。序盤のつばぜり合いから、池田の足が止まったところを小柳が引きドウで先取した。

しかし、その後は池田に

メンを決められ、延長戦へ。岩原は1回戦から出場



対戦相手と対面する小柳(7月5日、準決勝)＝鈴木華二撮影

し、3回戦まで一本勝ちで勝ち進んだ。迎えた第4回戦は鹿屋体育大の樋口恵淑と対戦。序盤は互いにメンやコテでけん制しあう展開となった。その後は岩原が得意の飛び込みメンで果敢に攻める場面もあったが、互いに技を決められず延長戦にもつれ込んだ。試合はそのまま約20分間も続き、最後は、岩原がメンを放ったところでコテを返されて敗れた。岩原は「思い切ったメン

スポーツ顔

サッカー

昨年12月の全日本大学選手権(インカレ)決勝。45年ぶりに関東大学リーグ優勝との2冠がかかった試合で、相手GKを華麗なドリブルでかわし、先制点を奪った。さらに3点目を決め、チームの勝利に貢献した。

全国高校総体(インターハイ)優勝の実績をひきつけて筑波大に推薦入学した逸材による面目躍如の活躍だった。ポジションはフィールドの中盤に位置するMFだ。試合のテンポをコントロールし、攻守の司令塔となる。得意のドリブルで相手を置き去りにしながら繰り出す、切れ味のいいパスやシュートが持ち味だ。「試合では観客がワクワクするようなプレーを常に意識している」と語る。

渡部 個人総合と平均台2冠 女子団体3位



体操



全日本学生選手権(インカレ)が8月22〜25日に高崎アリーナ(群馬県高崎市)で行われた。渡部葉月(体専4年)が女子個人総合と種目別の平均台で優勝した。個人総合は初優勝。また、筑波大女子は団体で3位となった。男子団体は7位だった。種目別では男女合わせて延べ6人が入賞した。

団体総合は1チーム6人で構成され、各種目とも上位5人の合計点で競う。また、各種目での得点がそのまま個人総合の得点となり、種目別予選の得点としても扱われた。女子団体総合の種目は跳馬、段違い平行棒、平均台、ゆかの四つ。筑波大は最初の跳馬を乗り切ると、続く段違い平行棒で6人中4人が13点台を出し、上位争いに絡んだ。

3種目目の平均台では

ミスをした選手もいたが、2025年の世界選手権でこの種目金メダルの渡部が14・0003点を挙げると、チーム全体でカバーした。また、大会直前には山本七海(同3年)がけがをするアクシデントがあったが、選手全員が演技をやり遂げて最後のゆかもまどめ、4種目合計254・059点で前年と同じ団体3位となった。

渡部は平均台に加えて段

違い平行棒でも13・566

点を挙げるなど安定した演

技を披露し、大きなミスな



団体で3位に入賞し喜び女子選手ら＝体操競技部提供

く4種目を終えた。そして、個人総合で合計53・665点を挙げ、初優勝した。種目別決勝には筑波大から男女5人が出場した。渡部は得意の平均台で

「エースの自分がチームを勝たせる」

を振り返る。J1で2連覇を果たしていたヴィッセル神戸からの誘いで練習に参加したが、「高校とは全くレベルが違う。このままで

を反骨心にリハビリに取

り組んだ」と語る。

昨年7月の復帰後は、インカレの最優秀選手(MVP)に選ばれたなど活躍。特にインカレ決

と意気込む。(飯野歩二国際総合学類2年、写真は蹴球部提供)



インカレ決勝で2得点

大谷湊斗 (体専2年)

がサッカーをする姿に憧れ、自身も幼稚園年中組からサッカーを始めた。中学では地元を離れ、山梨県北杜市のジュニアユース「アメージングアカデミー」に所属。高校では、埼玉県の強豪・昌陽で、昌平高校を初のインターハイ優勝に導いた。「主将としてチームをまとめるだけでなく、攻撃・守備の中心となり、プレーでチームを引っ張っていく責任を争んだ」と並時

勝での1点目については「4年生には試合中に自分に合わせたプレーをしてくれるなどお世話になった。その分、絶対勝ちたいという思いで臨んだ試合で先制点を決められ、大きな自信になった」という。

その後、高校時代から痛めていた左足首の状態が悪化し手術を受けた。関東大学リーグ開幕戦には出場したが、思うように試合に出られない期間が続いた。それでも同リーグの東洋大戦ではドリブルでのカットインからゴールを決めるなど、蹴球部で最多得点を挙げている。しかし、現状に満足はしていない。

「蹴球部のエースとしてチームを勝たせる選手にならなければいけない。得点力の向上が課題だ」と、自らにプレッシャーをかけている。

今後は「ピッチ内外でチームに貢献できる選手となり、今季はリーグ、将来は日本代表を目指す」と意気込む。(飯野歩二国際総合学類2年、写真は蹴球部提供)

Who's Who?

認知症学ぶボードゲーム考案

小島悠 さん（看護4年）



認知症啓発イベントでボードゲームの参加者と交流する小島さん＝本人提供

「すべての人が前向きに暮らせる社会を作ること」に貢献したい。その思いの実現に向けた第一歩として、認知症について学ぼうとできるボードゲーム「支えあい island ツアー」をつくり、市と共同で作成した。ゲームはすごろく形式で、参

加者はボード上に描かれた「気づきの島」「知恵の島」「ごころの島」「宝島の四つの島を順番に巡って行く。各島のマスには「認知症の原因となる病気は？」「自宅で生活する人が使えるサービスって何？」「認知症の父がひとりで歩きてしまう

……」「認知症の人にとって過ごしやすい社会とは？」などの質問が書かれている。

参加者は止まったマスの内容について自分の考えを述べる。他の参加者が良いと判断すればチップをもらう。一番チップを集めた者が勝者となる。答えに悩んだときは、ゲームのファシリテーターから助言を受けたら、つづいて市が作成した「認知症あんしんガイドブック」を参照したりできる。

こうして参加者は、ゲームを通じて認知症への知識を深め、自分や周囲の人々が認知症になった際の対応などについて考えるきっかけを得られる。

みんなで支え合える社会に

小中学生向けゲームも開発へ

数年前から祖母に認知症の段階の軽度認知障害（MCI）の兆候があり、対応に悩む祖父の姿を見ていたことから、認知症をテーマにした。

「認知症になったら何もできなくなる」と誤解している人が多い。症状の進行に応じて適切な対応を受ければ、自分らしく地域で暮らしていけることを知ってほしいと語る。

学群1〜3年生が研究活動に取り組める先導的研究者体験プログラム（ARE）を利用し、目麻里子准教授（医学医療系）の指導の下、昨年6月から作成を始めた。同市の「認知症あんしんガイドブック」から参加者に知ってもらいたい項目を厳選し、計28マスの質問を考えた。約3カ月でボードゲームを完成させ、市内の商業施設で開催された認知症の啓発イベントや市職員の新人研修で実際に使用してもらった。新人研修の参加者75人には、ゲームで遊ぶ前後

にアンケートを実施。ゲーム後は認知症に対する態度が前向きになり、知識もついたという結果が得られた。研究結果は今年1月にAREの報告会で発表した。11月には日本認知症学会でもポスター発表する予定だ。

来春からは看護科学学位プログラムに進学する。AREでの活動で研究の魅力に気づいたからだ。「知りたいことを探すために論文を読んだり、地域の方々と関わったりすることが楽しく、これからも続けたいと思った」と振り返る。

大学院では、小中学生を対象にした認知症に関するボードゲームを制作する予定だ。「若男女を問わず楽しんでもらえるボードゲームを開発し、認知症の方でもつでない方も、地域で支え合っていけるような社会の実現に貢献したい」という目標に向かって研究を続けていく。

（松尾有姫Ⅱ比較文化学類3年）

は、これから利用が本格化します。その内部を写真で巡りました（10面）。いつもは1ヶの学芸面もつと、50周年を迎えた吹奏楽団の記念コンサート（4面）や芸術専門学群の学生らのパフォーマンス（同）など、学生の活躍をより多く取り上げました▼利用料の値上げが延期された学生宿舎では、エアコンの設置を巡って混乱が見られました（12面）。本紙編集部では、茨城県に台風15号が初上陸した後、エアコンが故障した（8、9面）。現・元学域群生と教員との座談会から編纂期間入りでしたが、初秋の低気温に助けられまじび上がります▼5月に開所した未来社会デザイン棟理理学類3年）

編集後記

夏休みを挟んで約3カ月半ぶりの発行となりました。その分、特集面を充実させ、通常より多い16ページでお届けします▼今年のサッカー・ワールドカップ（W杯）では、日本代表を多くの筑波大関係者が支えています。その具体的な貢献と背景に迫りました（6、7面）▼開設6年目を迎えた総合学域群の成果と課題についても特集しました（8、9面）。現・元学域群生と教員との座談会から編纂期間入りでしたが、初秋の低気温に助けられまじび上がります▼5月に開所した未来社会デザイン棟理理学類3年）

次号は
12月16日（水）
発行予定です

印刷：リプロコム
発行所：筑波大学
◆ ほか編集部員25人 ◆

柳沢教授 ラスカー賞受賞



花束を贈呈され笑顔の柳沢教授（9月10日、IHSで）＝川畑悠成撮影

1面へ

UNIDOL 決勝戦



ダイナミックなパフォーマンスを披露する Bombs! のメンバーら（9月16日、カナデビアホールで）＝壬生奏太撮影

5面へ

柔道 団体インカレ



東洋大との代表戦で体重差約20kgの相手に一本勝ちした田中龍雅（下）（6月28日、日本武道館で）＝井出千晴撮影

14面へ

剣道 個人インカレ



4回戦で飛び込みメンを打ち込む岩原千佳（右）（7月5日、日本武道館で）＝鈴木華撮影

15面へ

学内総合

学芸

スポーツ

スポーツ